

安全・健康・コミュニティに関する調査

報 告 書

平成 30 年 1 月

厚 木 市

I 調査の概要

1. 調査目的	3
2. 調査対象と調査方法	3
3. 配布・回収結果	3
4. 調査項目	3
5. 集計方法について	4
6. 回答者（世帯）の基本属性	4
7. 回答者（個人）の基本属性	5

II 調査結果の概要

1. 調査概要	9
2. アンケート調査結果の概要	9

III 調査結果の分析

1. 自宅外での事故やけがの状況

(1) 過去1年間の自宅外でのけがの状況	15
(2) 過去1年間に自宅外でけがをした原因	16
(3) 過去1年間に自宅外でけがをした場所	18

2. 自宅での事故やけがの状況

(1) 過去1年間の自宅でのけがの状況	19
(2) 過去1年間に自宅で一番大きなけがをした原因と場所	20

3. 子ども（15歳未満）の事故やけがの状況

(1) 自宅外でのけがの状況	22
(2) 自宅でのけがの状況	23

4. 体感不安（犯罪被害等含む）に関する実態

(1) 地域の治安の変化に対する意識	24
(2) 犯罪等被害や不安を感じる事項と程度	26
(3) 犯罪等被害にあう不安を感じる状況と程度	28
(4) 犯罪被害に巻き込まれないために行っている対策の状況	30
(5) 犯罪防止のために重要と考える対策	31

目次

5. 自転車の利用に関する意識と事故やけがの状況

(1) 自転車利用の概要	32
(2) 自転車の利用・交通ルールの認知状況	34
(3) 自転車利用時に感じる不安や危険	36
(4) 自転車利用時のけがや事故の経験	38
(5) 自転車利用時のけがや事故がおきた場所、状況、原因	39
(6) 自転車利用時にけがをした体の箇所と医療機関での治療状況	42
(7) 自転車利用の不安や危険を減少させるためにしていること	43
(8) 自転車利用の不安や危険を改善するために必要なこと	44

6. 災害についての意識

(1) 不安を感じる災害	45
(2) 災害対策の重要度	46
(3) 災害に対する自己対策	47
(4) 非常用備蓄品の状況	48

7. 「セーフコミュニティ」の認知状況

(1) 厚木市の取組の認知状況	49
(2) 今後の「セーフコミュニティ」の取組に関する意識	50

8. 市民生活の安心・安全に関する意識

(1) 居住地域の安心・安全に関する意識	51
(2) 近所付き合いと安心・安全に関する意識	55

IV 調査票と集計結果

世帯票	61
個人票	63

I 調査の概要

I 調査の概要

1. 調査目的

市民の安全・健康・コミュニティに対する考えやその現状を調査するとともに、集計、分析を行い、今後のセーフコミュニティ活動等の資料とすることを目的とする。

2. 調査対象と調査方法

平成 29 年 7 月 18 日現在、厚木市に住民登録している世帯主 7,000 人を無作為抽出（地域・年齢バランスを考慮）し、世帯主及び同居家族（世帯票 1 通＋個人票 3 通同封）を対象とする。（配布・回収ともに郵送）

3. 配布・回収結果

配布対象 (調査実施期間)	配布数	有効回収数 (%)	備考
厚木市内の世帯 (平成 29 年 8 月 1 日～21 日)	7,000 世帯	2,022 世帯 (28.9%)	個人票回収数 4,017 票

4. 調査項目

【世帯票】（世帯主あるいは、それに代わる方が世帯を代表して記入）

- (1) 世帯属性（居住地区、居住年数、家族人数・構成、住居の種類）
- (2) 「セーフコミュニティ」について（認知、協働推進の必要性）
- (3) 厚木市の生活（満足度、近所付き合い～現状と今後の意向）
- (4) 子どもの外傷実態（子どもの年齢、自宅外・自宅における外傷経験、外傷状況、付き添いの有無、医療機関への受診経験）

【個人票】（15 歳以上の世帯構成員全員が回答。世帯主も記入）

- (1) 自宅外における過去 1 年以内の外傷実態（外傷経験、医療機関への受診状況、外傷原因、外傷の場所）
- (2) 自宅における過去 1 年以内の外傷実態（外傷経験、医療機関への受診状況、一番大きな外傷原因、一番大きな外傷の場所）
- (3) 体感不安（1 年前と比べた体感治安、事例別の犯罪被害への不安、不安に感じる地域の状況、犯罪被害対策の実施状況、犯罪抑止対策の重要度）
- (4) 自転車利用（自転車の利用状況・目的・頻度、交通ルールの認知状況、不安や危険、過去 5 年以内のけがや事故の経験・状況、不安や危険を減少させるための取組・改善策）
- (5) 災害（災害不安、災害対策の重要度、自己対策、非常用備蓄品の状況）
- (6) 基本属性（性別、年齢）

5. 集計方法について

- (1) 集計結果を表すグラフには、回答者数（n）も併せて表記する。
- (2) 無回答や不明な回答は除く。このため、項目により回答者数（n）は異なる。
- (3) 複数回答の場合の回答者数（n）は、設問に回答した人数を表記する。
- (4) 集計表およびグラフ中の構成比は、四捨五入の関係で合計が100%とならないことがある。

6. 回答者（世帯）の基本属性

(1) 居住地区

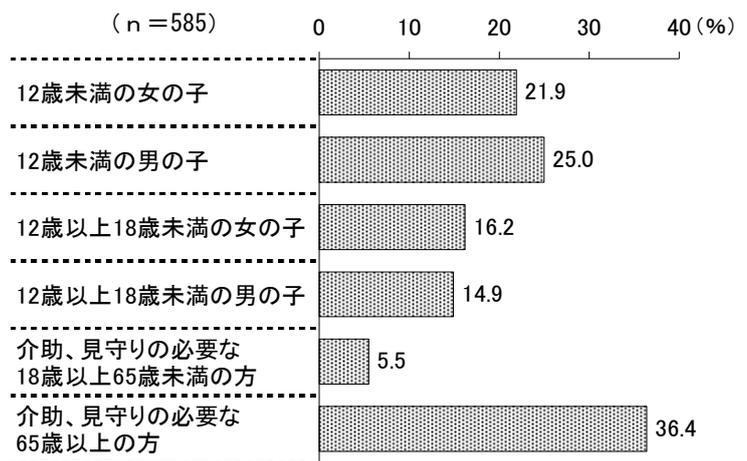
	n	構成比 (%)
厚木北	197	10.1
厚木南	188	9.6
依知北	135	6.9
依知南	100	5.1
睦合北	64	3.3
睦合南	154	7.9
睦合西	76	3.9
荻野	226	11.6
小鮎	141	7.2
南毛利	335	17.2
南毛利南	66	3.4
玉川	36	1.8
森の里	95	4.9
相川	88	4.5
緑ヶ丘	50	2.6
合計	1,951	100.0

(2) 居住年数

	n	構成比 (%)
1年未満	87	4.4
1年以上5年未満	255	12.8
5年以上10年未満	206	10.3
10年以上15年未満	194	9.7
15年以上20年未満	193	9.7
20年以上	1,058	53.1
合計	1,993	100.0

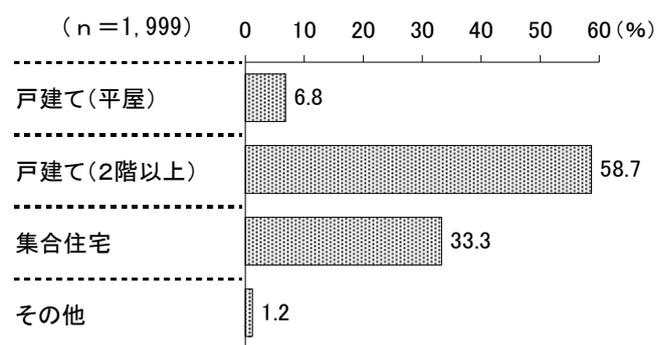
(3) 家族構成

	n	構成比 (%)
1人	392	19.6
2人	794	39.7
3人	443	22.1
4人	248	12.4
5人	71	3.5
6人	40	2.0
7人	10	0.5
8人	4	0.2
合計	2,002	100.0



(4) 住居の種類

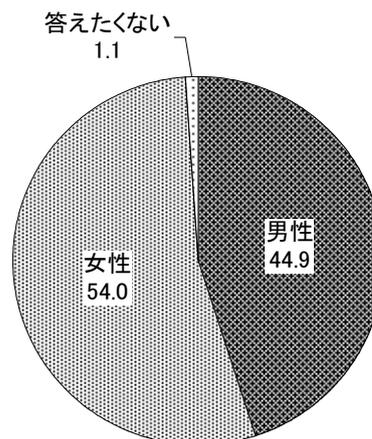
	n	構成比 (%)
戸建て（平屋）	135	6.8
戸建て（2階以上）	1,174	58.7
集合住宅	666	33.3
その他	24	1.2
合計	1,999	100.0



7. 回答者（個人）の基本属性

(1) 性別

	n	構成比 (%)
男性	1,777	44.9
女性	2,138	54.0
答えたくない	43	1.1
合計	3,958	100.0



(n=3,958)

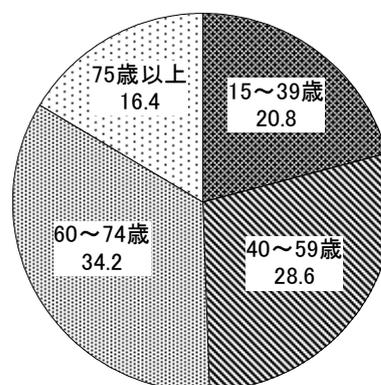
(%)

(2) 性別（居住地区別）

	男性		女性		答えたくない	
	n	構成比 (%)	n	構成比 (%)	n	構成比 (%)
厚木北	156	44.3	193	54.8	3	0.9
厚木南	140	43.6	179	55.8	2	0.6
依知北	122	45.9	139	52.3	5	1.9
依知南	88	47.6	96	51.9	1	0.5
睦合北	54	41.9	67	51.9	8	6.2
睦合南	138	43.3	178	55.8	3	0.9
睦合西	69	48.3	73	51.0	1	0.7
荻野	202	46.4	228	52.4	5	1.1
小鮎	136	46.1	158	53.6	1	0.3
南毛利	288	43.8	361	54.9	9	1.4
南毛利南	61	46.2	71	53.8	-	-
玉川	33	44.6	39	52.7	2	2.7
森の里	86	44.1	108	55.4	1	0.5
相川	76	46.6	86	52.8	1	0.6
緑ヶ丘	48	50.5	47	49.5	-	-
合計	1,697	45.1	2,023	53.8	42	1.1

(3) 年齢

	n	構成比 (%)
15～39歳	824	20.8
40～59歳	1,132	28.6
60～74歳	1,355	34.2
75歳以上	651	16.4
合計	3,962	100.0



(n=3,962)

(%)

II 調査結果の概要

II 調査結果の概要

1. 調査概要

厚木市における「セーフコミュニティ」の取組を進めていくため、①全市的な外傷動向及びハイリスクグループの特定や外傷発生メカニズムの解明、②体感治安を構成する要素、③「セーフコミュニティ」認証取得や市の取組の認知状況、継続推進の必要性、④自転車の利用に関する意識と事故やけがの状況、⑤災害についての意識の把握を目的としたアンケート調査を実施した。

2. アンケート調査結果の概要

(1) 「セーフコミュニティ」の認知状況

- ・ 「セーフコミュニティ」の認知状況は、「セーフコミュニティの考え方や活動を知っている」が 11.6%、「セーフコミュニティという言葉は聞いたことがある」は 47.8%となっており、認知度は 59.4%となっている。過年度調査と比較すると、認知度は平成 20 年度調査以降増加傾向にあり、平成 26 年度調査より 3.5 ポイント増加している。
- ・ 今後の「セーフコミュニティ」の取組の推進について、「必要がある」が 58.9%、「どちらかという必要がある」は 26.6%となっており、必要がある人の割合は 85.5%となっている。過年度調査と比較すると、必要がある人の割合は、平成 23 年度調査以降増加傾向にある。

(2) 市民生活の安心・安全に関する意識

- ・ 市全体では、居住地域が安心・安全かどうかについて、「そう思う」が 22.0%、「どちらかといえばそう思う」は 46.9%となっており、居住地域が安心・安全だと思う人の割合は 68.9%となっている。過年度調査と比較すると、居住地域が安心・安全だと思う人の割合は、平成 20 年度調査以降増加傾向にあり、平成 26 年度調査より 4.6 ポイント増加している。
- ・ 現在の近所付き合いの状況別でみると、居住地域が安心・安全だと思う人の割合は、現在の近所付き合いが親密になるほど高くなっており、「互いに相談しあうような、生活面での協力関係ができる程度」では 76.5%と高くなっている。
- ・ 現在の近所付き合いの状況は、「互いに相談しあうような、生活面での協力関係ができる程度」が 14.1%、「互いに相談しあうことはないが、世間話や立ち話をする程度」は 48.1%となっており、この 2つを合わせた、ある程度の近所付き合いのある人の割合が 62.2%となっている。
- ・ 今後の近所付き合いの意向では、「互いに相談しあうような、生活面での協力関係ができる程度」が 27.3%、「互いに相談しあうことはないが、世間話や立ち話をする程度」は 48.9%となっており、今後、より親密な近所付き合いを希望する人の割合が高くなっている。

(3) 自宅外での事故やけがの状況

- ・ 過去 1 年間に自宅外でけがをした人は 16.2%となっており、このうち医療機関を利用した人は約半数の 8.4%となっている。年齢階層別でみると、過去 1 年間に自宅外でけがをした人は、15～39 歳で 21.3%と最も高く、次いで、75 歳以上の後期高齢者で 19.7%となっている。
- ・ 過去 1 年間に自宅外でけがをした原因は、「転倒」が 51.5%で最も高く、次いで「切傷・刺傷」が 24.7%、「交通事故」が 12.8%となっている。平成 26 年度調査と比較すると、上位 3 位は同様の項目となっている。また、「転倒」は 3.3 ポイント減少している。

(4) 自宅での事故やけがの状況

- ・ 過去1年間に自宅でけがをした人は14.1%となっており、このうち医療機関を利用した人は3人に1人の4.7%となっている。年齢階層別でみると、過去1年間に自宅でけがをした人は、75歳以上の後期高齢者で20.4%と最も高く、次いで、40～59歳で13.7%となっている。
- ・ 過去1年間に自宅で一番大きなけがをした原因は、「切傷・刺傷」が43.6%で最も高く、次いで「転倒」が26.3%、「火傷」が8.4%となっている。過年度調査と比較すると、平成20年度調査以降、上位3位は同様の項目となっている。また、「切傷・刺傷」は平成20年度調査以降増加傾向にあったが、今回調査では減少に転じており、平成26年度調査より2.2ポイント減少している。
- ・ 過去1年間に自宅で一番大きなけがをした場所は、「台所」が37.6%で最も高く、次いで「居室」が24.5%、「庭」が16.4%となっている。

(5) 子ども（15歳未満）の事故やけがの状況

- ・ 15歳未満の子どもがいる世帯の38.5%が自宅外で何らかのけがをしており、けがの状況は、「道路や歩道を走っていて転倒」と「学校でのけが・事故（クラブ活動中なども含む）」がともに14.4%で高く、次いで「保育園・幼稚園でのけが・事故」が5.8%、「公園（ブランコ・すべり台・鉄棒）でのけが」が5.0%となっている。また、けがをした際に医療機関に行った人は、「階段や高所からの転落」、「学校でのけが・事故（クラブ活動中なども含む）」、「交通事故（単独、自転車・自動車の乗車中）」、「建物や車両などのドアに挟まれたけが」で高くなっている。
- ・ 15歳未満の子どもがいる世帯の23.7%が自宅で何らかのけがをしており、けがの状況は、「家具や物に体をぶつけるなどの衝突」が9.9%で最も高く、次いで「ドアや窓、家具などで挟まれたけが」が5.5%、「ベッドや椅子などから転落」と「廊下や浴室などでの転倒」がともに4.3%となっている。また、けがをした際に医療機関に行った人は、「たばこやおもちゃなどの異物誤飲」、「階段から転落」、「火気や熱湯、暖房器具などの接触によるやけど」で高くなっている。

(6) 体感不安（犯罪被害等含む）に関する実態

- ・ 1年前と比べた地域の治安は、市全体では、「良くなった」が3.7%、「変わらない」が72.8%、「悪くなった」が10.5%となっている。居住地区別でみると、1年前と比べた地域の治安が、「良くなった」は玉川地区で7.6%と最も高く、次いで、緑ヶ丘地区で6.0%となっている。一方、「悪くなった」は依知北と睦合北地区でともに14.0%と高く、次いで、依知南地区で13.1%となっている。
- ・ 犯罪等被害や不安を感じる事項で、「非常に不安」と「かなり不安」と答えた人の割合は、「地震や風水害にあう不安」が42.9%で最も高く、次いで「自宅にどろぼう（空き巣など）に入られる不安」と「飲酒運転による交通事故、ひき逃げなどの悪質・危険な交通法令違反の被害にあう不安」がともに26.9%となっている。過年度調査と比較すると、「テロに巻き込まれる不安」は平成26年度調査より6.2ポイント増加している。
- ・ 犯罪等被害にあう不安を感じる状況で、「非常に不安」と「かなり不安」と答えた人の割合は、「人通りの少ない道」が33.2%で最も高く、次いで「夜、街灯が暗いところがある」が31.2%となっている。過年度調査と比較すると、「夜、街灯が暗いところがある」、「人通りの少ない道」、「スプレーによる落書きがある」、「路上への違法駐車や放置自転車がある」、「少年などのたむろ、たまり場がある」は平成20年度調査以降減少傾向にあり、「夜、街灯が暗いところがある」では平成26年度調査より3.0ポイント減少している。

- ・ 犯罪被害に巻き込まれないためにとっている対策は、「外出時に玄関や窓に鍵をかける」が 94.4%で最も高く、次いで「夕方等に部屋の明かりをつけたり、テレビの音を出すなど、家に人がいると思わせるようにする」が 44.0%、「夜間に門灯・玄関灯をつける」が 43.9%となっている。過年度調査と比較すると、「外出時に玄関や窓に鍵をかける」は平成 26 年度調査より 1.0 ポイント増加し、引き続き 1 位となっている。「夜間に門灯・玄関灯をつける」と「センサーライトの設置」は平成 26 年度調査よりともに 4.5 ポイント増加している。また、「街灯や防犯灯のランプが切れていたら管理者に連絡する」は平成 20 年度調査以降増加傾向にあり、平成 26 年度調査より 3.8 ポイント増加している。
- ・ 犯罪防止のために重要と考える対策で、「重要である」と「どちらかといえば重要である」と答えた人の割合は、「個人の防犯対策」が 97.0%で最も高く、次いで「警察の防犯活動の充実」が 96.8%、「市民と行政との協働による犯罪抑止への取組み」が 93.6%となっている。

(7) 自転車の利用に関する意識と事故やけがの状況

- ・ 自転車の利用状況は、「利用している」が 38.0%、「利用していない」は 62.0%となっている。平成 26 年度調査と比較すると、「利用していない」は 4.0 ポイント増加している。
- ・ 自転車の利用目的は、「買い物・飲食」が 50.0%で最も高く、次いで「通勤・通学」が 28.5%、「余暇活動」が 14.8%となっている。
- ・ 自転車の利用・交通ルールの認知状況は、「信号を守る」が 98.9%で最も高く、次いで「夜間はライトを点灯」が 97.4%、「運転中の携帯電話や傘さし運転の禁止」が 94.2%となっている。
- ・ 自転車利用時に感じる不安や危険は、「歩道と車道の区分がなく、歩行者や自動車と接触しそうになること」が 58.3%で最も高く、次いで「車道と歩道の段差や砂利道などで走行しにくいこと」が 55.9%となっている。平成 26 年度調査と比較すると、「歩道と車道の区分がなく、歩行者や自動車と接触しそうになること」は 2.6 ポイント増加している。一方、「道幅いっぱい広がって歩く歩行者」は 3.9 ポイント減少している。
- ・ 過去 5 年間の自転車利用時のけがや事故の経験は、「ある」が 17.9%、「ない」は 82.1%となっている。
- ・ けがや事故がおきた時間帯は、「昼間（通勤・通学時間以外）」が 42.1%で最も高く、次いで「朝の通勤・通学時間帯」が 24.1%、「夕方の帰宅時間帯」が 22.8%となっている。
- ・ 過去 5 年間で自転車利用時のけがや事故がおきた場所は、「歩道」が 44.8%で最も高く、次いで「車道」が 29.7%、「交差点」が 13.4%となっている。
- ・ けがや事故の状況は、「自分だけ転倒した」が 66.1%で最も高く、次いで「自動車やバイクと接触・衝突した」が 19.1%、「自転車同士で接触・衝突した」が 8.9%となっている。平成 26 年度調査と比較すると、「自分だけ転倒した」は 10.5 ポイント増加している。一方、「自転車同士で接触・衝突した」は 8.5 ポイント減少している。
- ・ けがや事故がおきた原因は、「道路に段差があった」が 35.9%で最も高く、次いで「道路が狭かった」が 20.3%、「出会いがしらでの衝突」が 12.7%となっている。平成 26 年度調査と比較すると、「歩行者が道いっぱい広がって歩いていた」は 4.2 ポイント増加している。一方、「出会いがしらでの衝突」は 3.6 ポイント減少している。
- ・ 過去 5 年間で自転車利用時にけがをした体の箇所は、「脚部」が 45.9%で最も高く、次いで「腕部」が 32.9%、「顔部」と「腰部」がともに 9.5%となっている。平成 26 年度調査と比較すると、「胸部」は 4.5 ポイント増加している。一方、「腕部」は 3.8 ポイント減少している。

- ・ 医療機関での治療状況は、「通院により手当を受けた」が 33.3%、「入院して手当を受けた」が 1.8% となっており、医療機関を利用した人は 35.1%となっている。一方、「医療機関には行ってない」は 64.9%となっている。
- ・ 自転車利用の不安や危険を減少させるためにしていることは、「自転車を離れるときは鍵をかける」が 88.9%で最も高く、次いで「交通ルール、マナーを守る」が 87.4%、「自転車の防犯登録」が 70.4%となっている。平成 26 年度調査と比較すると、「損害賠償保険（任意）に加入している」は 10.2 ポイント、「路上駐輪はしない」は 5.6 ポイント、それぞれ増加している。
- ・ 自転車利用の不安や危険を改善するために必要なことは、「事故やけがが多く発生している場所や危険箇所を把握し、その原因を明らかにして、具体的な対策を講じる」が 62.4%で最も高く、次いで「事故を誘発する路上駐輪や交通ルール、マナー違反など、厳しく取り締まる」が 59.7%となっている。

(8) 災害についての意識

- ・ 不安を感じる災害について、「非常に不安」と「かなり不安」と答えた人の割合は、「地震による被害」で 76.7%と最も高く、次いで「風水害（台風・豪雨・竜巻）」で 56.7%、「火災」で 51.8%となっている。
- ・ 災害対策について、「重要である」と「どちらかといえば重要である」と答えた人の割合は、「非常持ち出し袋や水・食料などの備蓄品の用意」と「行政（市、消防、警察など）による応急活動」がともに 96.7%で高く、次いで「災害弱者や要援護者の支援体制」で 96.6%となっており、全ての項目で 80%を超えている。
- ・ 災害に対する自己対策は、「非常持ち出し袋や水・食料などの備蓄品の用意」が 65.8%で最も高く、次いで「火災警報器の設置」が 63.6%、「消火器の用意」が 50.8%となっている。平成 26 年度調査と比較すると、「消火器の用意」は 3.1 ポイント増加している。一方、「非常持ち出し袋や水・食料などの備蓄品の用意」は 13.1 ポイント減少している。
- ・ 非常用備蓄品の状況は、「3 日分の備蓄をしている」が 32.2%で最も高くなっており、非常用備蓄品を備蓄している人の割合は 76.1%となっている。

Ⅲ 調査結果の分析

Ⅲ 調査結果の分析

1. 自宅外での事故やけがの状況

(1) 過去1年間の自宅外でのけがの状況

◇過去1年間に自宅外でけがをした人は16.2%、このうち2人に1人が医療機関を利用した

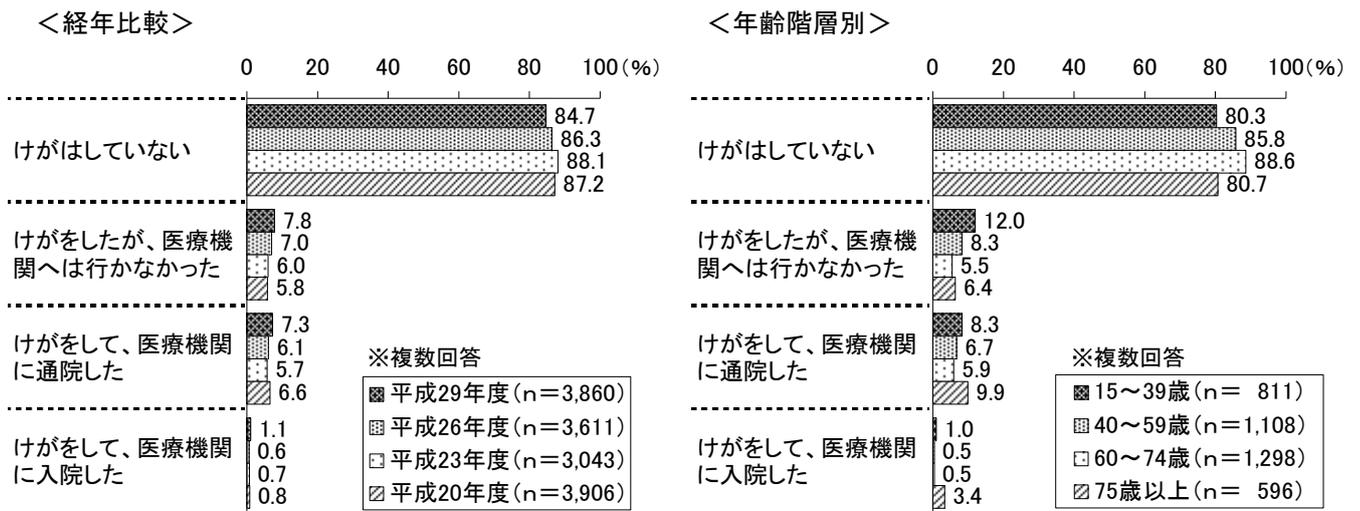
過去1年間に自宅外でけがをした人は16.2%となっており、このうち医療機関を利用した人は約半数の8.4%となっている。

過年度調査と比較すると、過去1年間に自宅外でけがをした人は、平成26年度調査より2.5ポイント、平成23年度調査より3.8ポイント、平成20年度調査より3.0ポイント、それぞれ増加している。

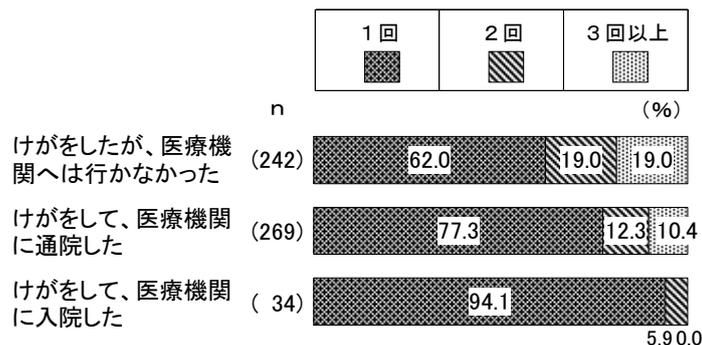
◇過去1年間に自宅外でけがをした人は、15～39歳で21.3%と最も高い

年齢階層別で見ると、過去1年間に自宅外でけがをした人は、15～39歳で21.3%と最も高く、次いで、75歳以上の後期高齢者で19.7%となっている。

図表1-1 過去1年間の自宅外でのけがの状況（経年比較、年齢階層別）



図表1-2 自宅外でけがをした際の医療機関の利用状況



(2) 過去1年間に自宅外でけがをした原因

◇過去1年間に自宅外でけがをした原因は、「転倒」が51.5%で最も高い

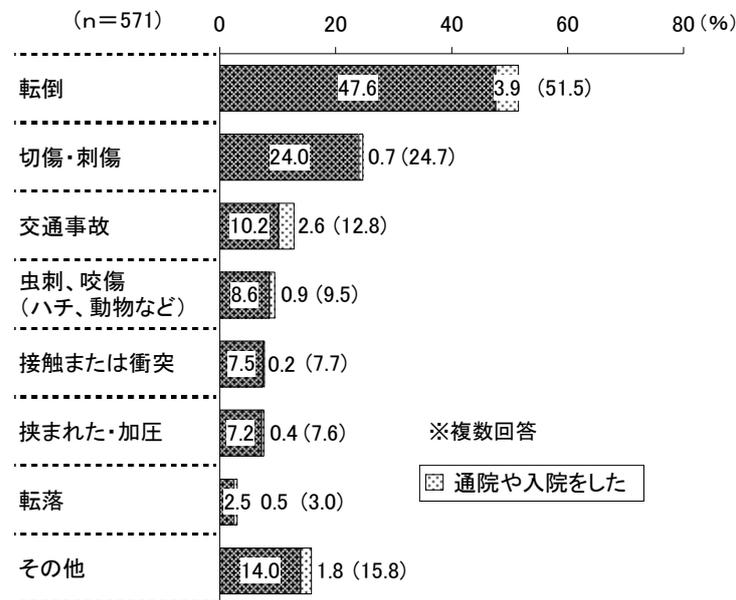
過去1年間に自宅外でけがをした原因は、「転倒」が51.5%で最も高く、次いで「切傷・刺傷」が24.7%、「交通事故」が12.8%となっている。

平成26年度調査と比較すると、上位3位は同様の項目となっている。また、「転倒」は3.3ポイント減少している。

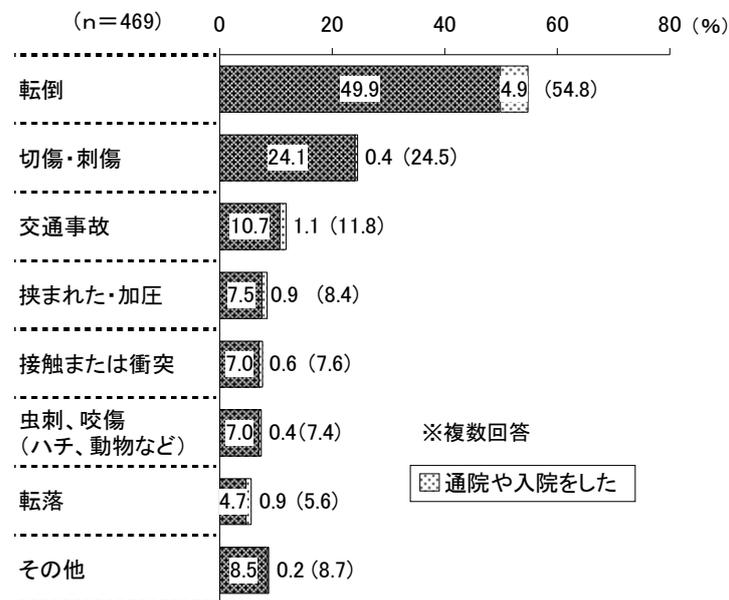
上位3位を年齢階層別で見ると、「転倒」は年齢階層が上がるほど割合が高くなっている。一方、「切傷・刺傷」と「交通事故」は年齢階層が下がるほど割合が高くなっている。

図表1-3 過去1年間に自宅外でけがをした原因（経年比較）

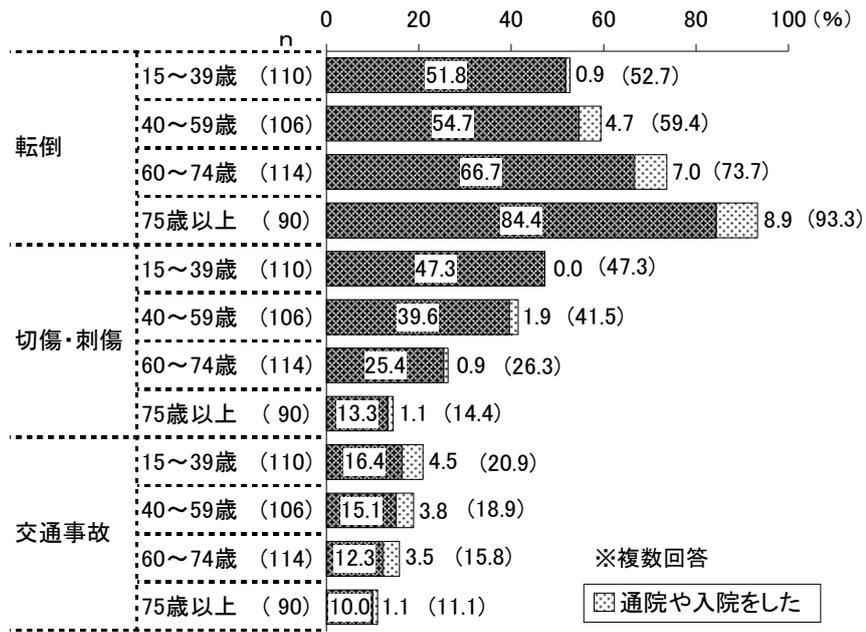
<平成29年度調査>



<平成26年度調査>



図表 1-4 過去1年間に自宅外でけがをした原因（年齢階層別）



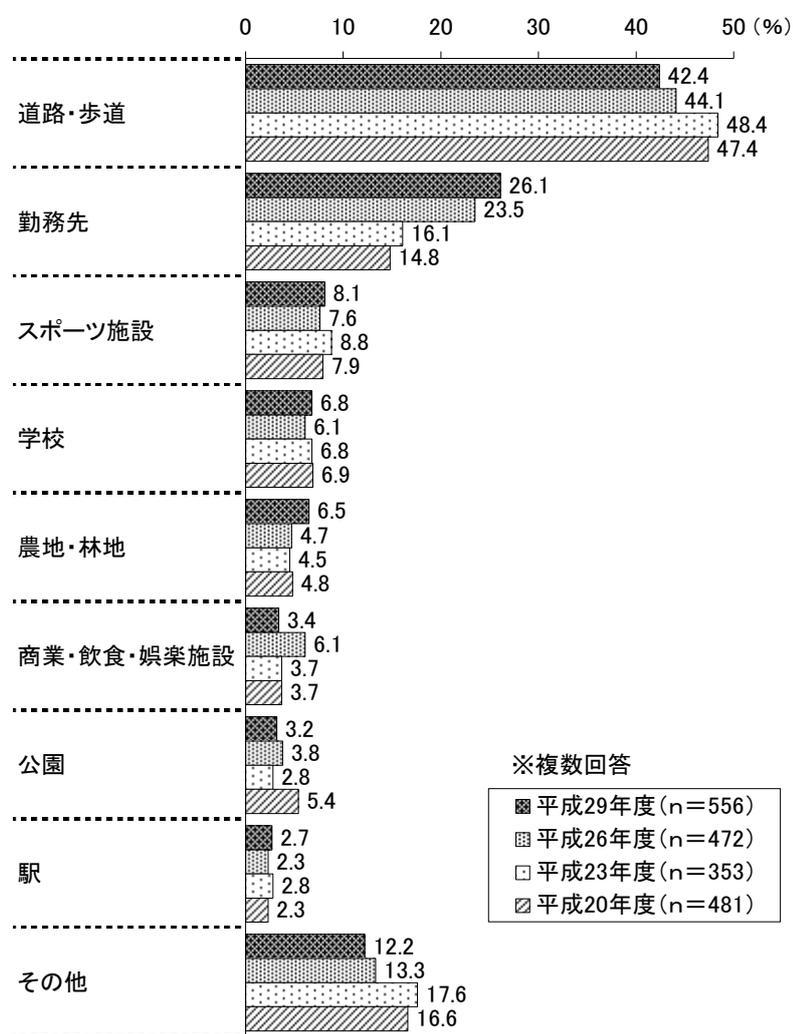
(3) 過去1年間に自宅外でけがをした場所

◇過去1年間に自宅外でけがをした場所は、「道路・歩道」が42.4%で最も高い

過去1年間に自宅外でけがをした場所は、「道路・歩道」が42.4%で最も高く、次いで「勤務先」が26.1%、「スポーツ施設」が8.1%となっている。

過年度調査と比較すると、平成20年度調査以降、上位4位は同率を含め同様の項目となっている。また、「勤務先」は平成20年度調査以降増加傾向にあり、平成26年度調査より2.6ポイント増加している。

図表1-5 過去1年間に自宅外でけがをした場所（経年比較）



2. 自宅での事故やけがの状況

(1) 過去1年間の自宅でのけがの状況

◇過去1年間に自宅でけがをした人は14.1%、このうち3人に1人が医療機関を利用した

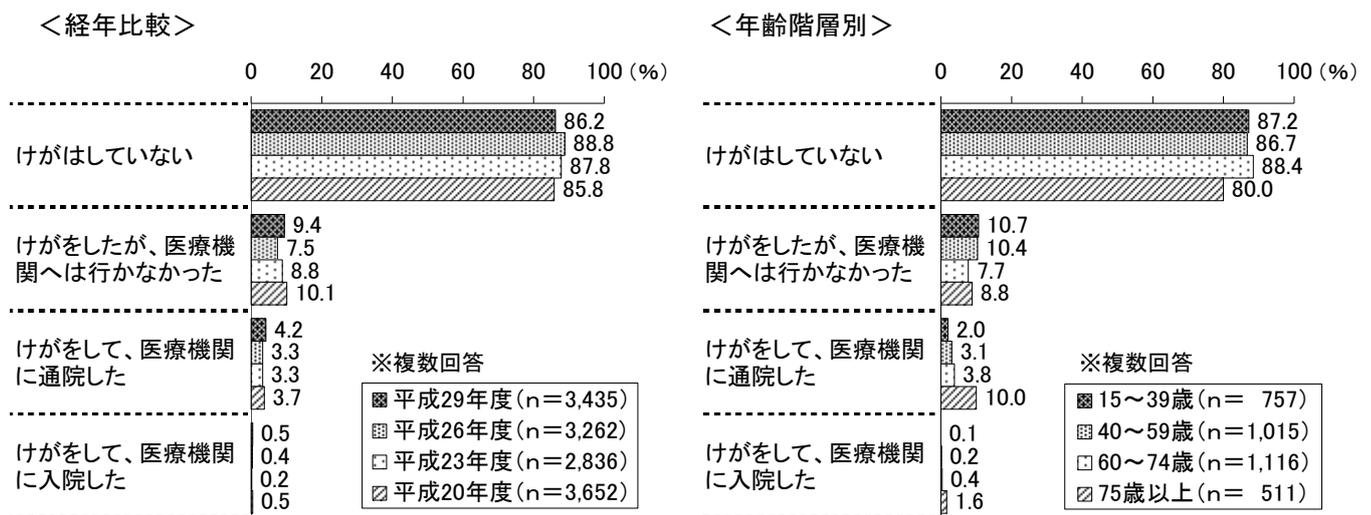
過去1年間に自宅でけがをした人は14.1%となっており、このうち医療機関を利用した人は3人に1人の4.7%となっている。

過年度調査と比較すると、過去1年間に自宅でけがをした人は、平成20年度調査以降減少傾向にあったが、今回調査では増加に転じており、平成26年度調査より2.9ポイント増加している。

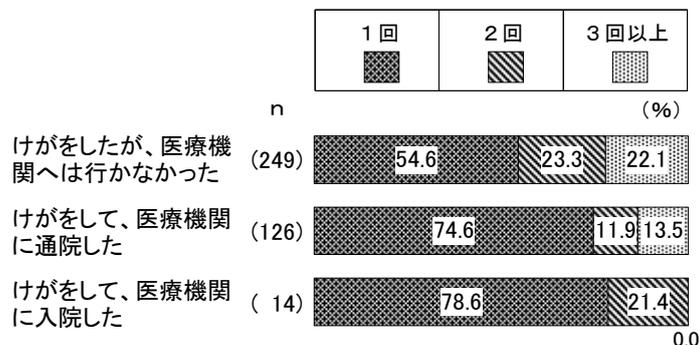
◇過去1年間に自宅でけがをした人は、75歳以上の後期高齢者で20.4%と最も高い

年齢階層別でみると、過去1年間に自宅でけがをした人は、75歳以上の後期高齢者で20.4%と最も高く、次いで、40～59歳で13.7%となっている。

図表2-1 過去1年間の自宅でのけがの状況（経年比較、年齢階層別）



図表2-2 自宅でけがをした際の医療機関の利用状況



(2) 過去1年間に自宅で一番大きなけがをした原因と場所

◇過去1年間に自宅で一番大きなけがをした原因は、「切傷・刺傷」が43.6%で最も高い

過去1年間に自宅で一番大きなけがをした原因は、「切傷・刺傷」が43.6%で最も高く、次いで「転倒」が26.3%、「火傷」が8.4%となっている。

過年度調査と比較すると、平成20年度調査以降、上位3位は同様の項目となっている。また、「切傷・刺傷」は平成20年度調査以降増加傾向にあったが、今回調査では減少に転じており、平成26年度調査より2.2ポイント減少している。

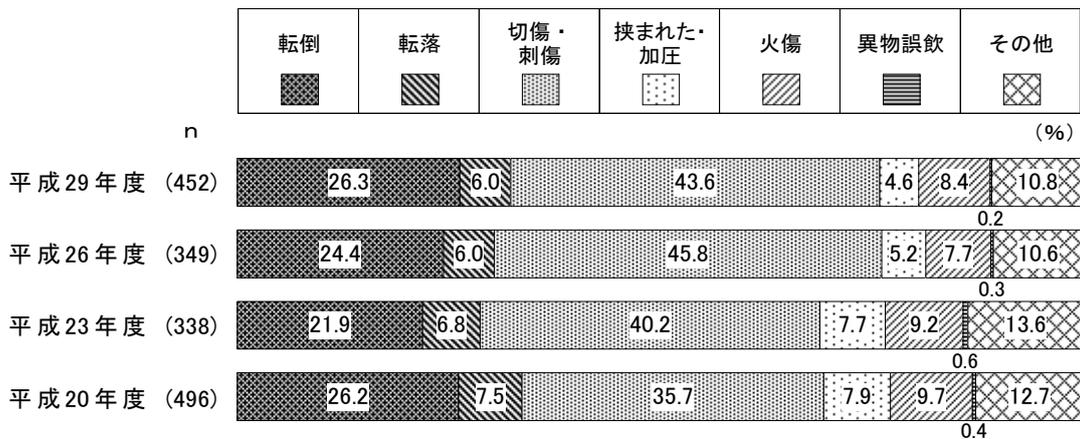
上位3位を年齢階層別で見ると、「転倒」は年齢階層が上がるほど割合が高くなっている。一方、「切傷・刺傷」は年齢階層が下がるほど割合が高くなっている。

◇過去1年間に自宅で一番大きなけがをした場所は、「台所」が37.6%で最も高い

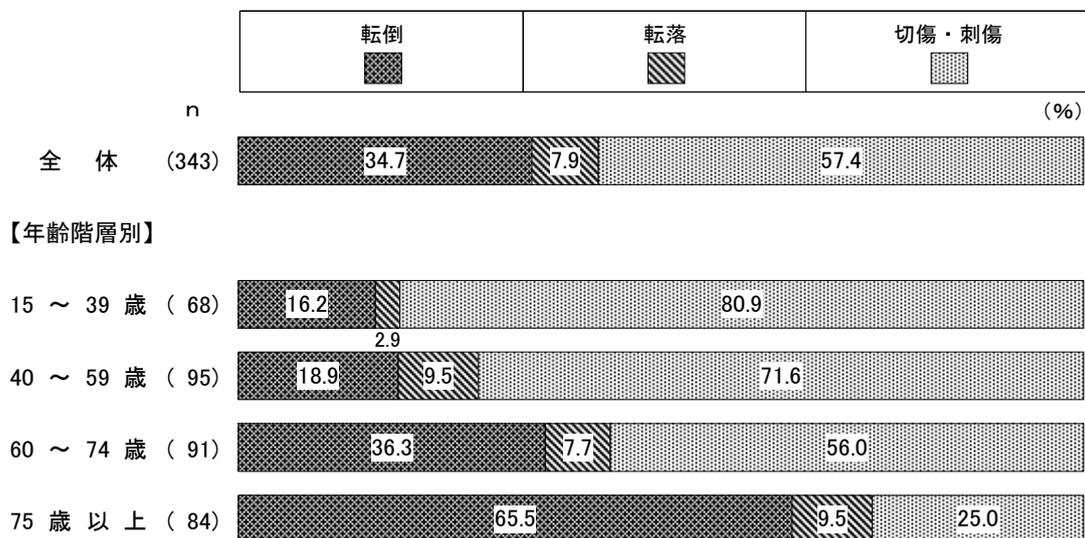
過去1年間に自宅で一番大きなけがをした場所は、「台所」が37.6%で最も高く、次いで「居室」が24.5%、「庭」が16.4%となっている。

過年度調査と比較すると、平成20年度調査以降、全ての項目が同様の順位となっている。また、「庭」は平成26年度調査より6.3ポイント増加している。

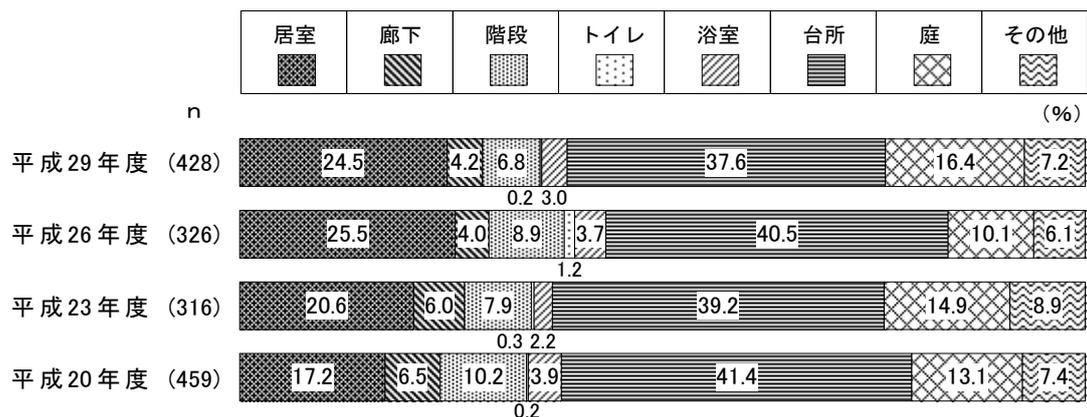
図表2-3 自宅でのけがの原因（経年比較）



図表2-4 自宅でのけがの原因（年齢階層別）



図表 2-5 自宅でけがをした場所（経年比較）



図表 2-6 けがをした場所とけがの原因の関係（経年比較）－上位 3 位

<平成 29 年度調査>

項目		(件)						
順位	項目	転倒	転落	切傷・刺傷	挟まれた・加圧	火傷	異物誤飲	その他
1 位	居室	36	13	110	8	30	1	16
2 位	庭	20	5	32	4	6		11
3 位	階段	12	4	30	4	2		9

<平成 26 年度調査>

項目		(件)						
順位	項目	転倒	転落	切傷・刺傷	挟まれた・加圧	火傷	異物誤飲	その他
1 位	居室	27	9	94	9	21	1	14
2 位	階段	14	3	26	5	3		5
3 位	庭	8	3	15	2	1		5

<平成 23 年度調査>

項目		(件)						
順位	項目	転倒	転落	切傷・刺傷	挟まれた・加圧	火傷	異物誤飲	その他
1 位	居室	21	13	82	11	26	1	13
2 位	庭	15	3	13	3	2		11
3 位	廊下	8	2	11	2	1		9

3. 子ども（15歳未満）の事故やけがの状況

(1) 自宅外でのけがの状況

◇15歳未満の子どもがいる世帯の38.5%が自宅外で何らかのけがをしている

◇けがの状況は、「道路や歩道を走っていて転倒」と「学校でのけが・事故（クラブ活動中なども含む）」がともに14.4%で高い

15歳未満の子どもがいる世帯の38.5%が自宅外で何らかのけがをしており、けがの状況は、「道路や歩道を走っていて転倒」と「学校でのけが・事故（クラブ活動中なども含む）」がともに14.4%で高く、次いで「保育園・幼稚園でのけが・事故」が5.8%、「公園（ブランコ・すべり台・鉄棒）でのけが」が5.0%となっている。

また、けがをした際に医療機関に行った人は、「階段や高所からの転落」、「学校でのけが・事故（クラブ活動中なども含む）」、「交通事故（単独、自転車・自動車の乗車中）」、「建物や車両などのドアに挟まれたけが」で高くなっている。

図表3-1 自宅外でのけがの状況

※複数回答

	事故やけがをした状況		大人がいた		医療機関に行った	
	n	構成比(%)	n	構成比(%)	n	構成比(%)
全 体	278	100.0	68	24.5	45	16.2
道路や歩道を走っていて転倒	40	14.4	25	62.5	6	15.0
学校でのけが・事故（クラブ活動中なども含む）	40	14.4	21	52.5	24	60.0
保育園・幼稚園でのけが・事故	16	5.8	11	68.8	5	31.3
公園（ブランコ・すべり台・鉄棒）でのけが	14	5.0	7	50.0	2	14.3
交通事故（単独、自転車・自動車の乗車中）	12	4.3	1	8.3	5	41.7
動物や虫などによるけが	9	3.2	6	66.7	2	22.2
人や物（例：電柱等）に衝突	5	1.8	2	40.0	1	20.0
建物や車両などのドアに挟まれたけが	5	1.8	3	60.0	2	40.0
階段や高所からの転落	4	1.4	3	75.0	3	75.0
海や川、プールなどでおぼれた	2	0.7	1	50.0	-	-
その他	9	3.2	7	77.8	7	77.8
けがはしていない	171	61.5				

※「大人がいた」と「医療機関に行った」の構成比は、各項目の「事故やけがをした状況」を基数としている
 ※「事故やけがをした状況」の回答数が高い順に並べている

(2) 自宅でのけがの状況

◇15歳未満の子どもがいる世帯の23.7%が自宅で何らかのけがをしている

◇けがの状況は、「家具や物に体をぶつけるなどの衝突」が9.9%で最も高い

15歳未満の子どもがいる世帯の23.7%が自宅で何らかのけがをしており、けがの状況は、「家具や物に体をぶつけるなどの衝突」が9.9%で最も高く、次いで「ドアや窓、家具などで挟まれたけが」が5.5%、「ベッドや椅子などから転落」と「廊下や浴室などでの転倒」がともに4.3%となっている。

また、けがをした際に医療機関に行った人は、「たばこやおもちゃなどの異物誤飲」、「階段から転落」、「火気や熱湯、暖房器具などの接触によるやけど」で高くなっている。

図表3-2 自宅でのけがの状況

※複数回答

	事故やけがをした状況		大人がいた		医療機関に行った	
	n	構成比(%)	n	構成比(%)	n	構成比(%)
全 体	253	100.0	46	18.2	12	4.7
家具や物に体をぶつけるなどの衝突	25	9.9	18	72.0	1	4.0
ドアや窓、家具などで挟まれたけが	14	5.5	13	92.9	1	7.1
ベッドや椅子などから転落	11	4.3	9	81.8	1	9.1
廊下や浴室などでの転倒	11	4.3	7	63.6	1	9.1
火気や熱湯、暖房器具などの接触によるやけど	9	3.6	7	77.8	2	22.2
階段から転落	8	3.2	7	87.5	2	25.0
刃物や鋭利なものによるけが	8	3.2	5	62.5	-	-
動物や虫などによるけが	7	2.8	4	57.1	1	14.3
たばこやおもちゃなどの異物誤飲	1	0.4	1	100.0	1	100.0
ベランダや窓の手すりを乗り越え高所から転落	-	-	-	-	-	-
就寝中の窒息	-	-	-	-	-	-
入浴中の溺水	-	-	-	-	-	-
その他	4	1.6	1	25.0	3	75.0
けがはしていない	193	76.3				

※「大人がいた」と「医療機関に行った」の構成比は、各項目の「事故やけがをした状況」を基数としている
 ※「事故やけがをした状況」の回答数が高い順に並べている

4. 体感不安（犯罪被害等含む）に関する実態

（1）地域の治安の変化に対する意識

◇1年前と比べた地域の治安は、市全体では、「変わらない」が72.8%で最も高く、平成20年度調査以降増加傾向にある

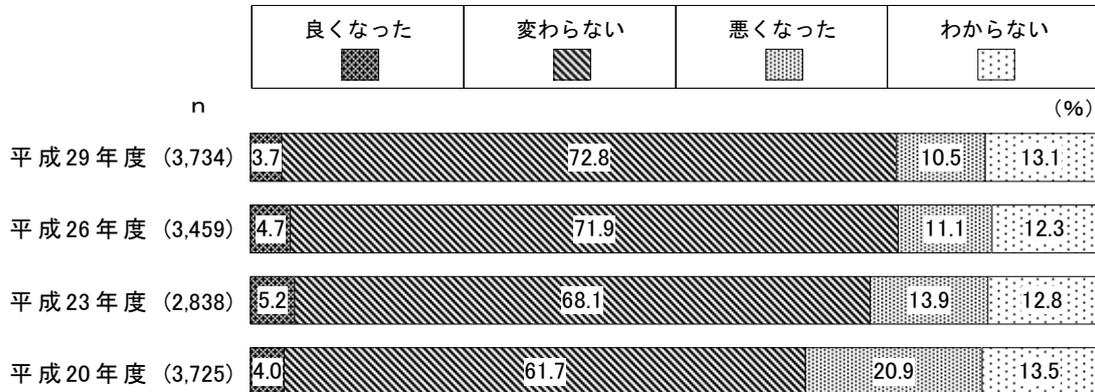
1年前と比べた地域の治安は、市全体では、「良くなった」が3.7%、「変わらない」が72.8%、「悪くなった」が10.5%となっている。

過年度調査と比較すると、「変わらない」は平成20年度調査以降増加傾向にあり、平成26年度調査より0.9ポイント増加している。一方、「悪くなった」は平成20年度調査以降減少傾向にある。

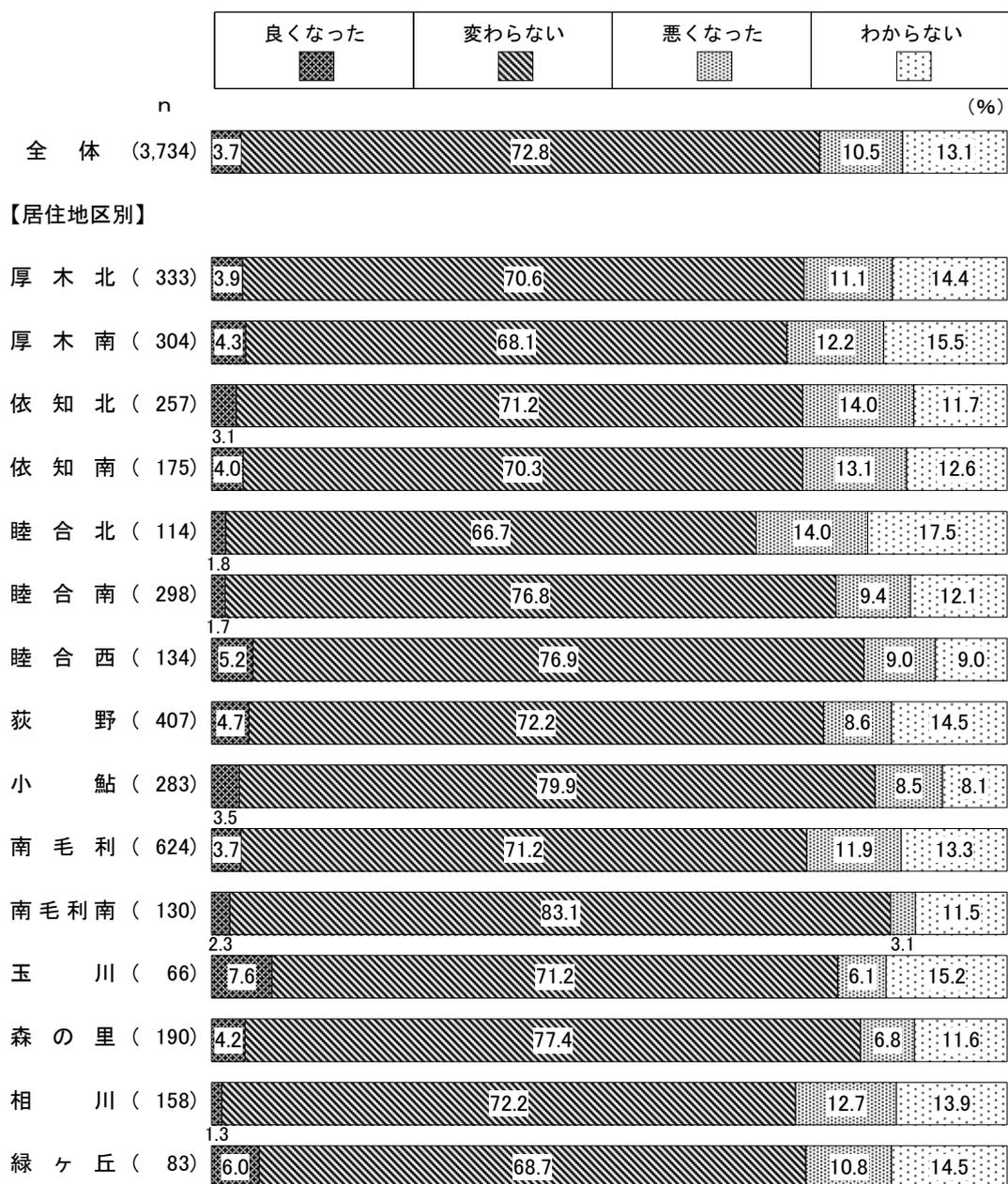
◇居住地区別では、「良くなった」は玉川地区で7.6%と最も高く、「悪くなった」は依知北と睦合北地区でともに14.0%と高い

居住地区別で見ると、1年前と比べた地域の治安が、「良くなった」は玉川地区で7.6%と最も高く、次いで、緑ヶ丘地区で6.0%となっている。一方、「悪くなった」は依知北と睦合北地区でともに14.0%と高く、次いで、依知南地区で13.1%となっている。

図表4-1 地域の治安の変化に対する意識（経年比較）



図表 4-2 地域の治安の変化に対する意識（居住地区別）



(2) 犯罪等被害や不安を感じる事項と程度

◇犯罪等被害や不安を感じる事項は、「地震や風水害にあう不安」が42.9%で最も高い

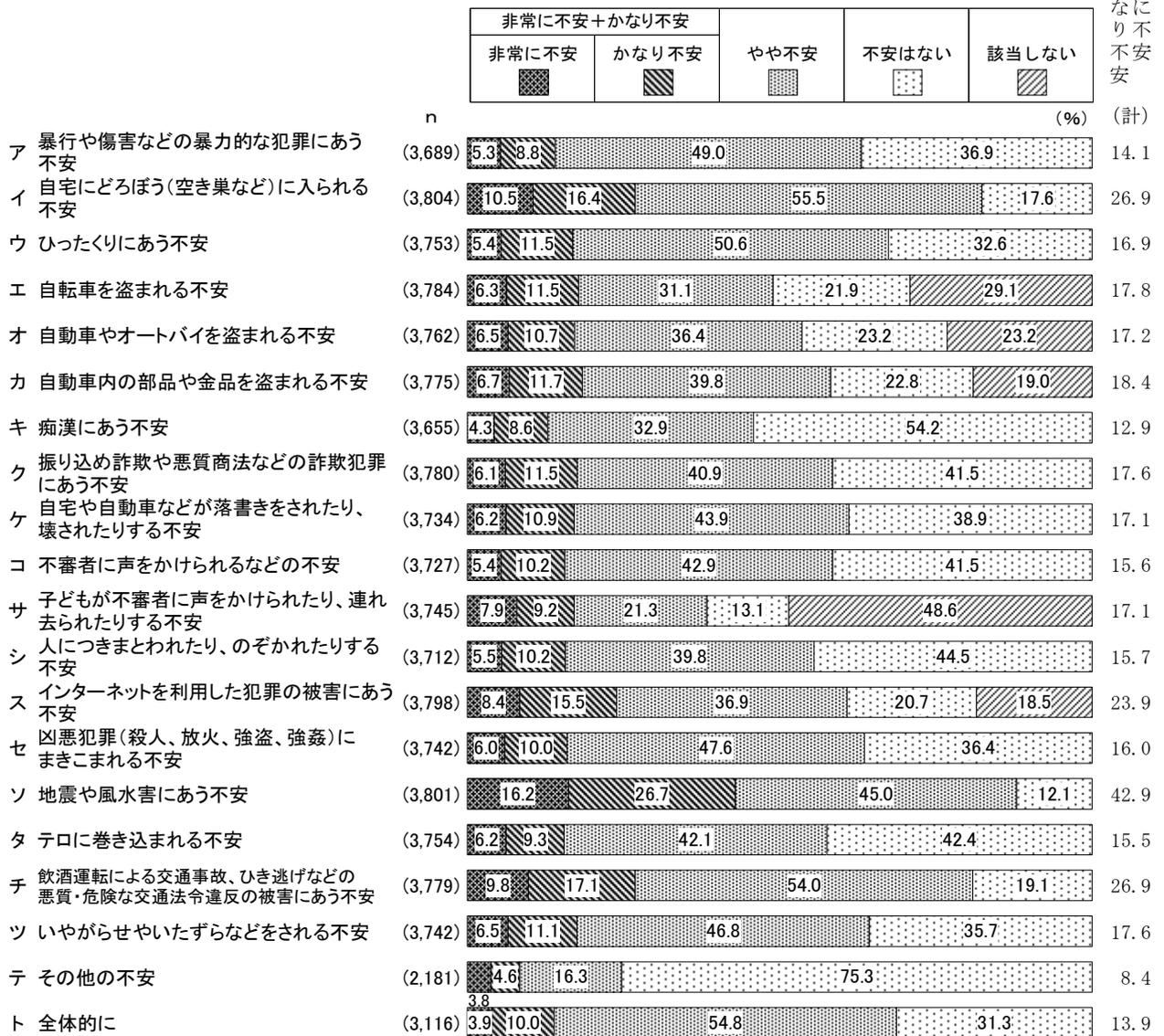
犯罪等被害や不安を感じる事項で、「非常に不安」と「かなり不安」と答えた人の割合は、「地震や風水害にあう不安」が42.9%で最も高く、次いで「自宅にどろぼう（空き巣など）に入られる不安」と「飲酒運転による交通事故、ひき逃げなどの悪質・危険な交通法令違反の被害にあう不安」がともに26.9%となっている。

過年度調査と比較すると、「テロに巻き込まれる不安」は平成26年度調査より6.2ポイント増加している。

◇性別では、女性が男性より「痴漢にあう不安」で10.6ポイント、「地震や風水害にあう不安」で10.3ポイント、それぞれ高い

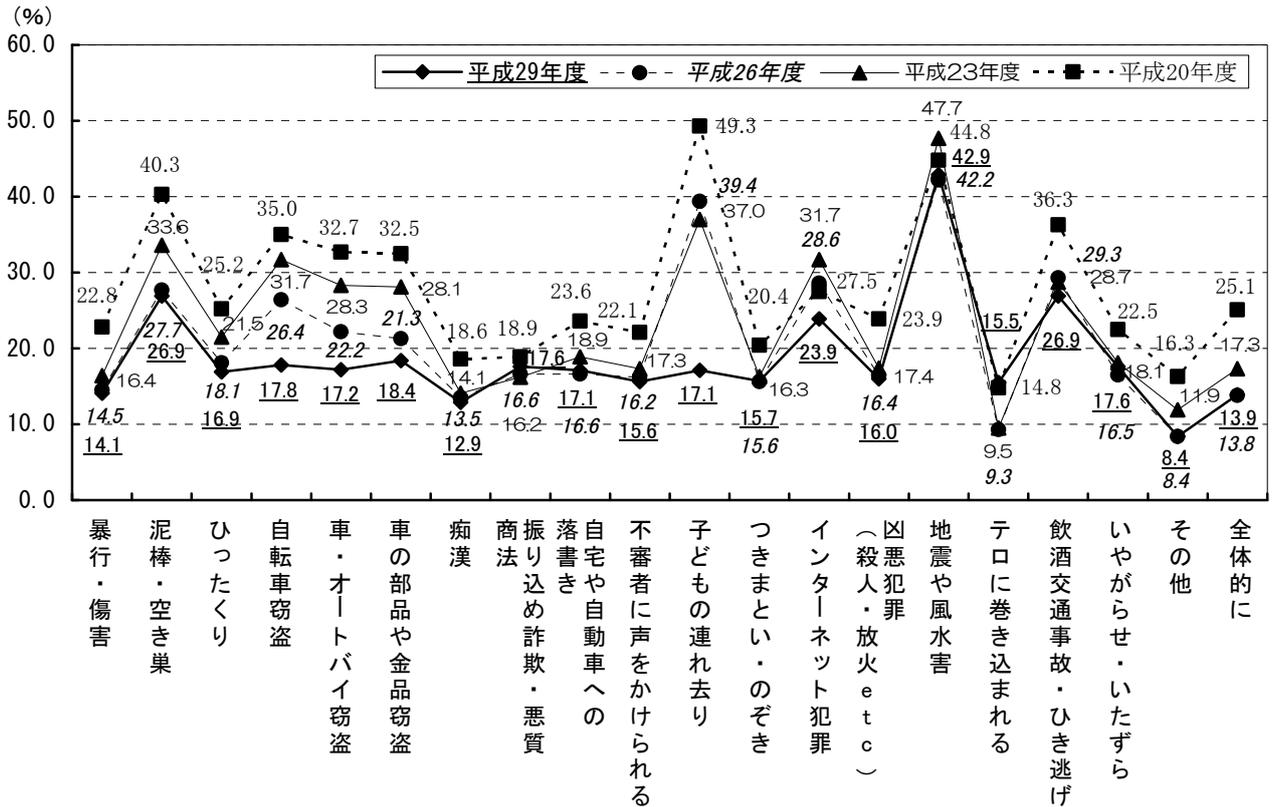
性別でみると、犯罪等被害や不安を感じる事項で、「非常に不安」と「かなり不安」と答えた人の割合は、女性が男性より「痴漢にあう不安」で10.6ポイント、「地震や風水害にあう不安」で10.3ポイント、それぞれ高くなっている。

図表4-3 犯罪等被害や不安を感じる事項と程度



※「該当しない」の選択肢は、“エ 自転車を盗まれる不安”、“オ 自動車やオートバイを盗まれる不安”、“カ 自動車内の部品や金品を盗まれる不安”、“サ 子どもが不審者に声をかけられたり、連れ去られたりする不安”、“ス インターネットを利用した犯罪の被害にあう不安”のみにある選択肢

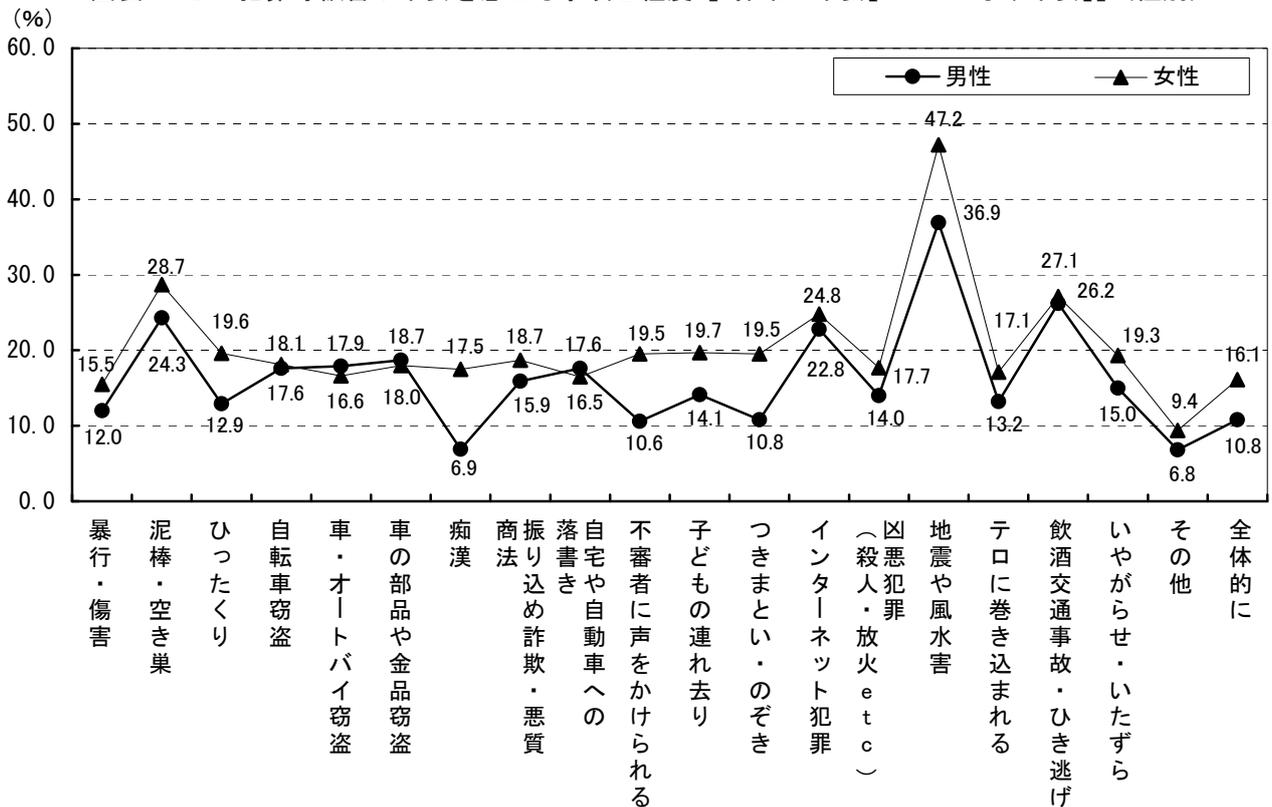
図表 4-4 犯罪等被害や不安を感じる事項と程度【「非常に不安」＋「かなり不安」】（経年比較）



※グラフの数値は、「非常に不安」「かなり不安」と答えた人を合わせた割合

※平成 29 年度調査から、「自転車窃盗」、「車・オートバイ窃盗」、「車の部品や金品窃盗」、「子どもの連れ去り」、「インターネット犯罪」に、「該当しない」の選択肢を追加している

図表 4-5 犯罪等被害や不安を感じる事項と程度【「非常に不安」＋「かなり不安」】（性別）



※グラフの数値は、「非常に不安」「かなり不安」と答えた人を合わせた割合

(3) 犯罪等被害にあう不安を感じる状況と程度

◇犯罪等被害にあう不安を感じる状況は、「人通りの少ない道」が33.2%で最も高い

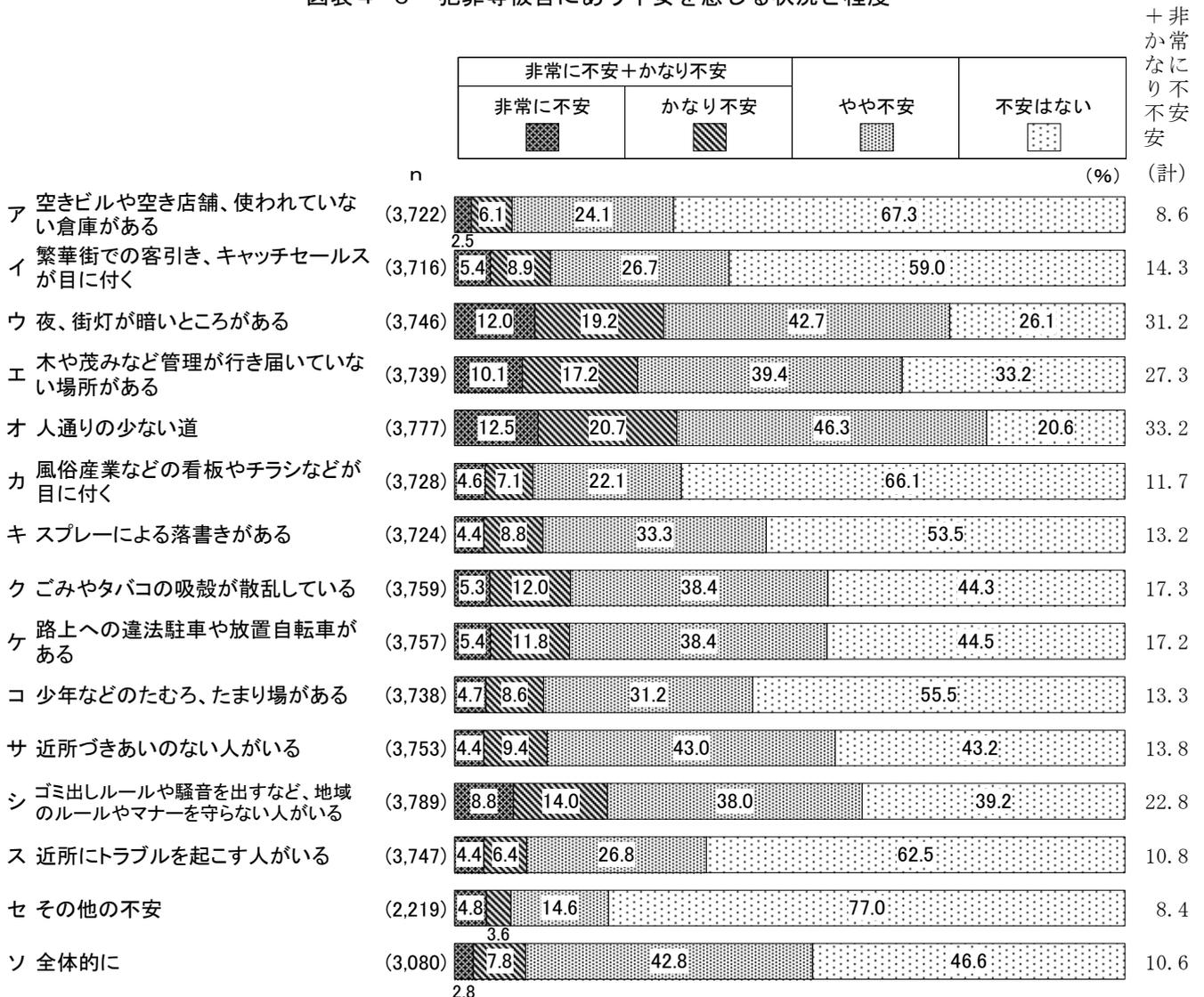
犯罪等被害にあう不安を感じる状況で、「非常に不安」と「かなり不安」と答えた人の割合は、「人通りの少ない道」が33.2%で最も高く、次いで「夜、街灯が暗いところがある」が31.2%となっている。

過年度調査と比較すると、「夜、街灯が暗いところがある」、「人通りの少ない道」、「スプレーによる落書きがある」、「路上への違法駐車や放置自転車がある」、「少年などのたむろ、たまり場がある」は平成20年度調査以降減少傾向にあり、「夜、街灯が暗いところがある」では平成26年度調査より3.0ポイント減少している。

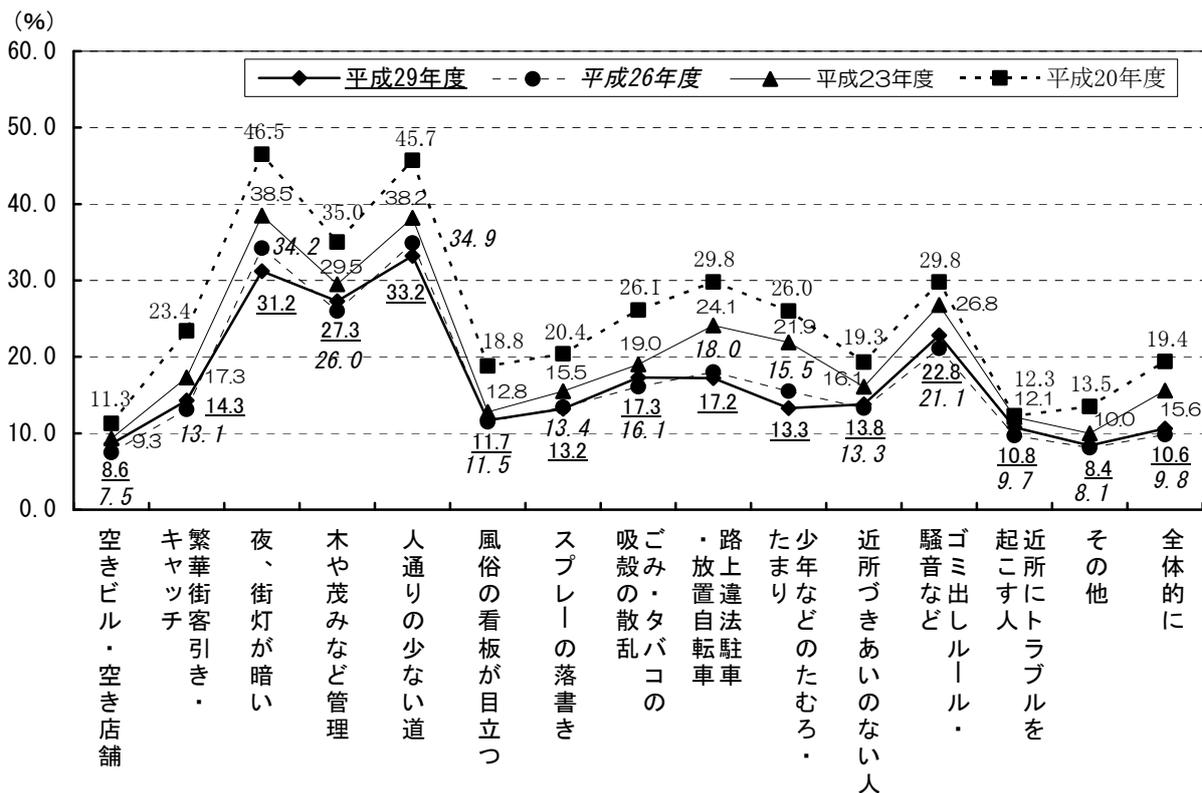
◇性別では、女性が男性より「人通りの少ない道」で15.1ポイント、「夜、街灯が暗いところがある」で12.1ポイント、それぞれ高い

性別でみると、犯罪等被害にあう不安を感じる状況で、「非常に不安」と「かなり不安」と答えた人の割合は、女性が男性より「人通りの少ない道」で15.1ポイント、「夜、街灯が暗いところがある」で12.1ポイント、それぞれ高くなっている。

図表4-6 犯罪等被害にあう不安を感じる状況と程度

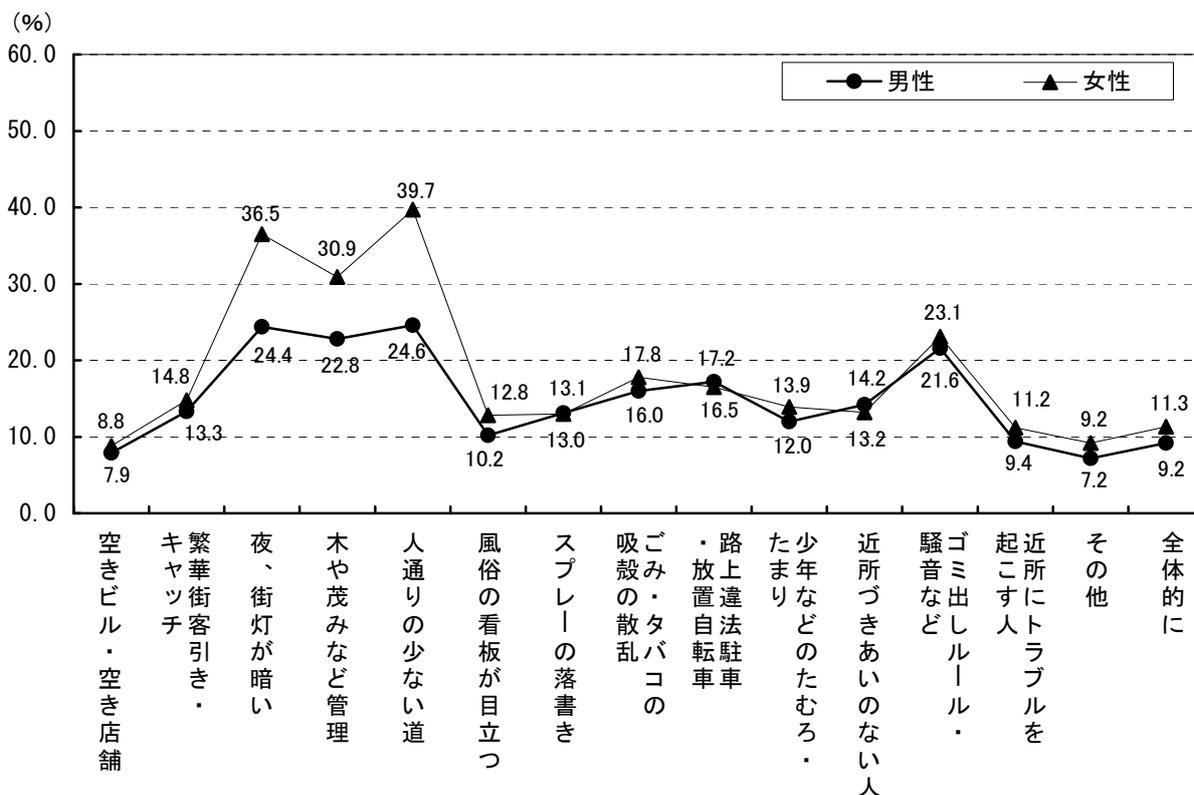


図表4-7 犯罪等被害にあう不安を感じる状況と程度【「非常に不安」＋「かなり不安」】（経年比較）



※グラフの数値は、「非常に不安」「かなり不安」と答えた人を合わせた割合

図表4-8 犯罪等被害にあう不安を感じる状況と程度【「非常に不安」＋「かなり不安」】（性別）



※グラフの数値は、「非常に不安」「かなり不安」と答えた人を合わせた割合

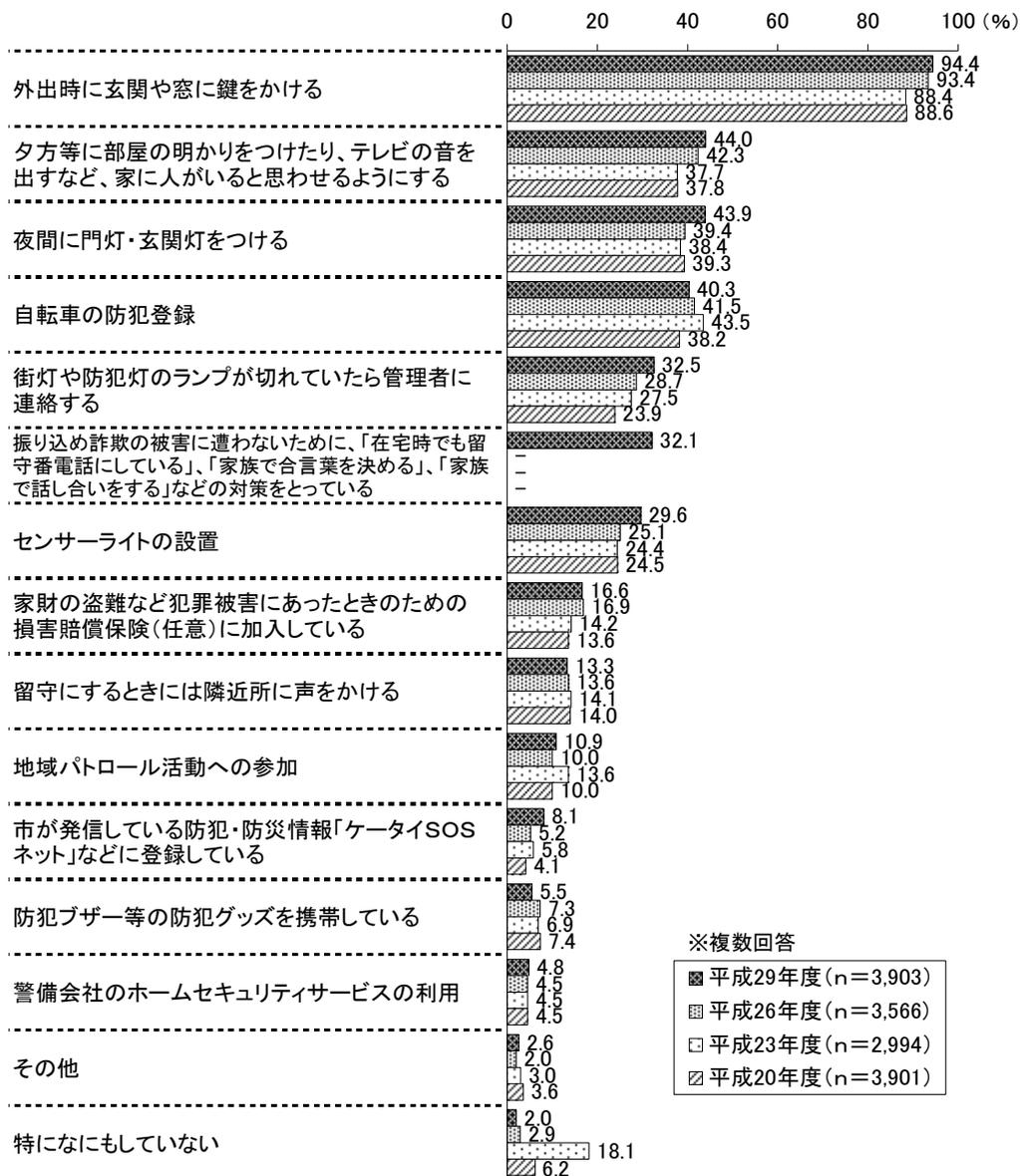
(4) 犯罪被害に巻き込まれないためにとっている対策の状況

◇犯罪被害に巻き込まれないためにとっている対策は、「外出時に玄関や窓に鍵をかける」が94.4%で最も高い

犯罪被害に巻き込まれないためにとっている対策は、「外出時に玄関や窓に鍵をかける」が94.4%で最も高く、次いで「夕方等に部屋の明かりをつけたり、テレビの音を出すなど、家に人がいると思わせるようにする」が44.0%、「夜間に門灯・玄関灯をつける」が43.9%となっている。

過年度調査と比較すると、「外出時に玄関や窓に鍵をかける」は平成26年度調査より1.0ポイント増加し、引き続き1位となっている。「夜間に門灯・玄関灯をつける」と「センサーライトの設置」は平成26年度調査よりともに4.5ポイント増加している。また、「街灯や防犯灯のランプが切れていたら管理者に連絡する」は平成20年度調査以降増加傾向にあり、平成26年度調査より3.8ポイント増加している。

図表4-9 犯罪被害に巻き込まれないためにとっている対策の状況（経年比較）



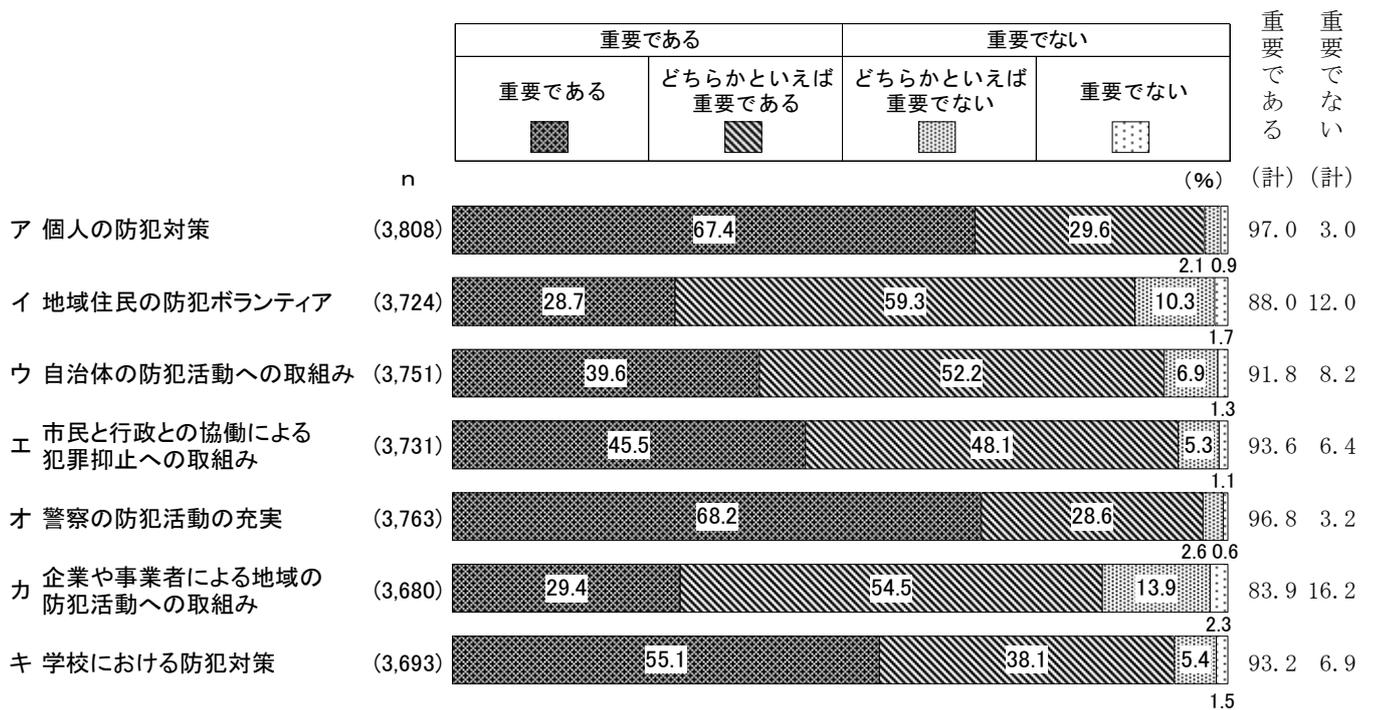
※「振り込め詐欺の被害に遭わないために、『在宅時でも留守番電話にしている』、『家族で合言葉を決める』、『家族で話し合いをする』などの対策をとっている」は、平成29年度から追加された選択肢

(5) 犯罪防止のために重要と考える対策

◇犯罪防止のために重要と考える対策で、「重要である」と「どちらかといえば重要である」と答えた人の割合は、「個人の防犯対策」が97.0%で最も高い

犯罪防止のために重要と考える対策で、「重要である」と「どちらかといえば重要である」と答えた人の割合は、「個人の防犯対策」が97.0%で最も高く、次いで「警察の防犯活動の充実」が96.8%、「市民と行政との協働による犯罪抑止への取組み」が93.6%となっている。

図表 4-10 犯罪防止のために重要と考える対策



5. 自転車の利用に関する意識と事故やけがの状況

(1) 自転車利用の概要

◇自転車を「利用している」が38.0%、利用目的は「買い物・飲食」が50.0%で最も高い

自転車の利用状況は、「利用している」が38.0%、「利用していない」は62.0%となっている。

平成26年度調査と比較すると、「利用していない」は4.0ポイント増加している。

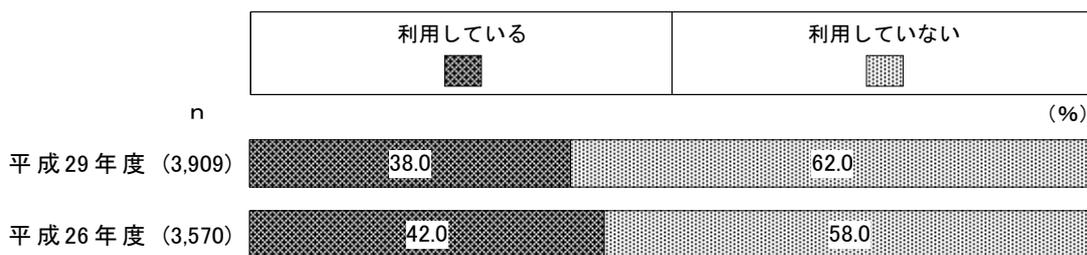
年齢階層別でみると、「利用している」は15～39歳で45.1%と最も高く、次いで、40～59歳で37.2%となっている。

自転車の利用目的は、「買い物・飲食」が50.0%で最も高く、次いで「通勤・通学」が28.5%、「余暇活動」が14.8%となっている。

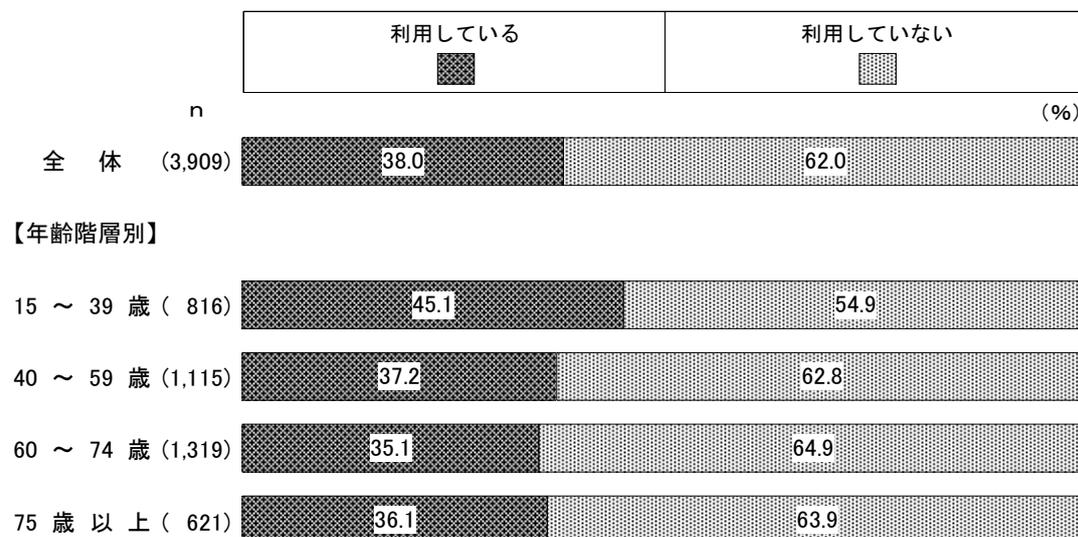
平成26年度調査と比較すると、ほぼ同様の傾向となっている。

年齢階層別でみると、「通勤・通学」は年齢階層が下がるほど割合が高くなっている。一方、「買い物・飲食」は年齢階層が上がるほど割合が高くなっている。

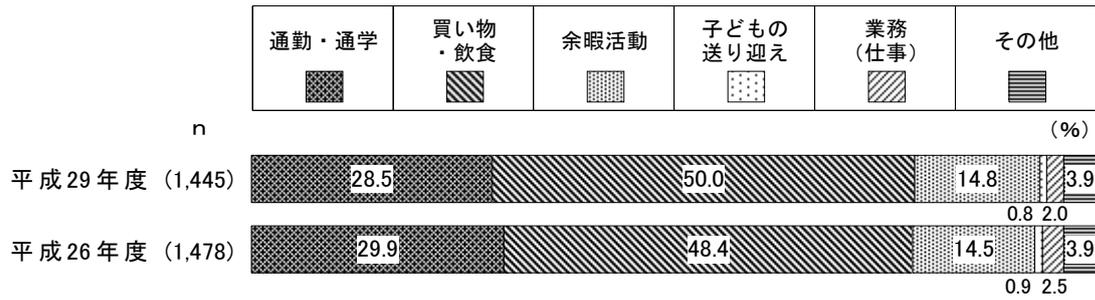
図表5-1 自転車の利用状況（経年比較）



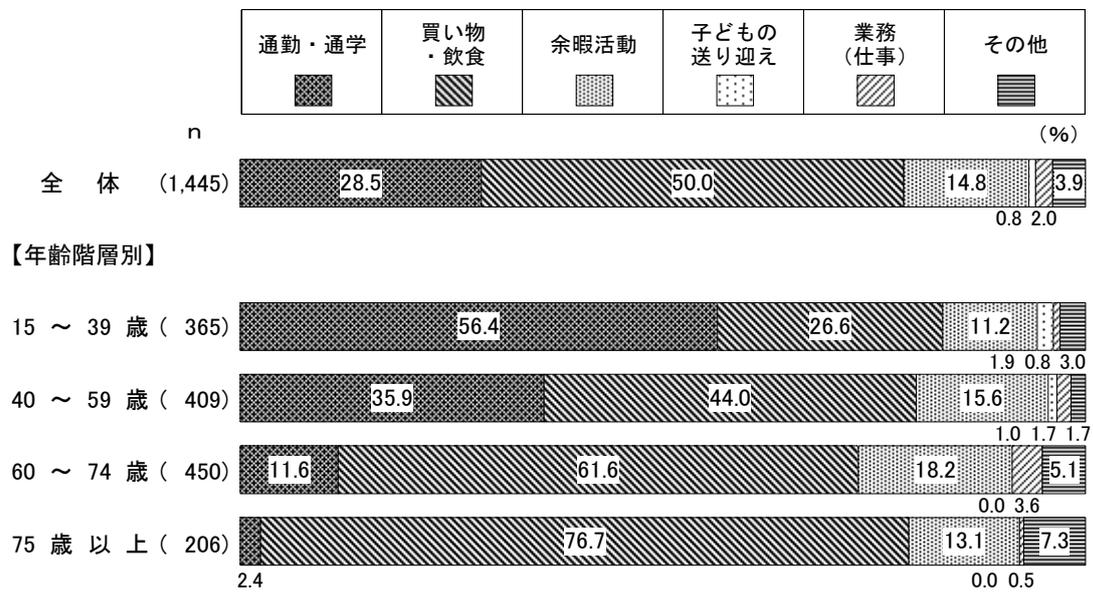
図表5-2 自転車の利用状況（年齢階層別）



図表 5-3 自転車の利用目的（経年比較）



図表 5-4 自転車の利用目的（年齢階層別）



(2) 自転車の利用・交通ルールの認知状況

◇自転車の利用・交通ルールの認知状況は、「信号を守る」が98.9%で最も高い

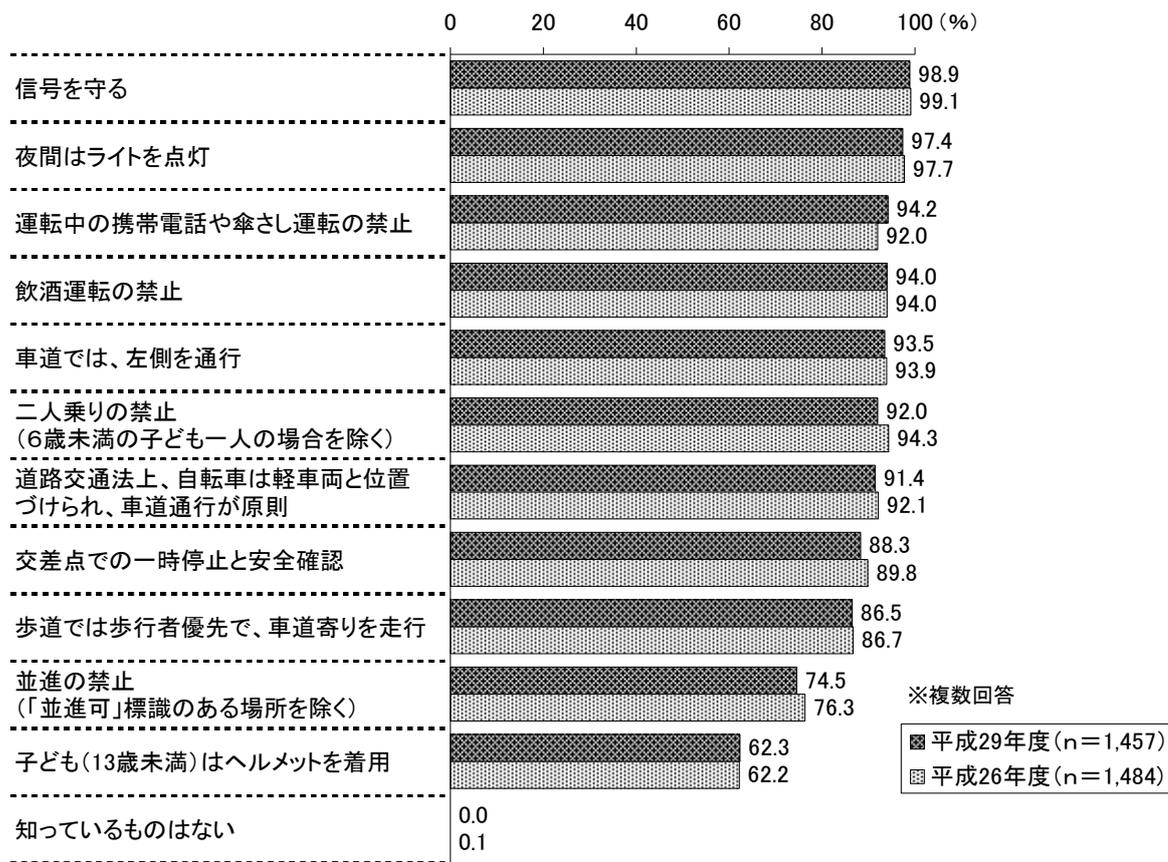
自転車の利用・交通ルールの認知状況は、「信号を守る」が98.9%で最も高く、次いで「夜間はライトを点灯」が97.4%、「運転中の携帯電話や傘さし運転の禁止」が94.2%となっている。

平成26年度調査と比較すると、「運転中の携帯電話や傘さし運転の禁止」は2.2ポイント増加している。一方、「二人乗りの禁止（6歳未満の子ども一人の場合を除く）」は2.3ポイント減少している。

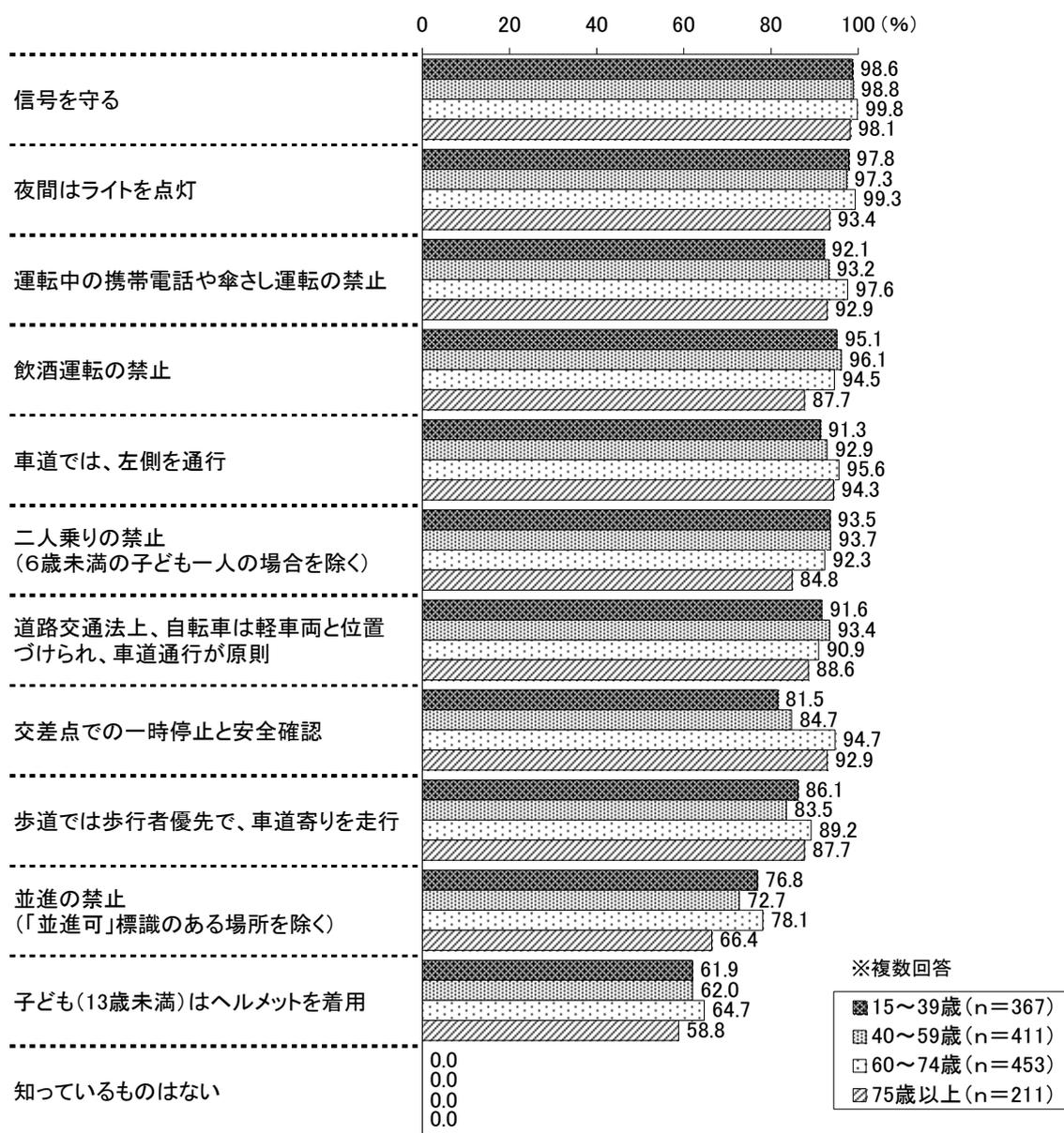
◇多くの項目で60～74歳の認知度が他の年齢階層に比べて高い

年齢階層別でみると、多くの項目で60～74歳の認知度が他の年齢階層に比べて高くなっている。また、「夜間はライトを点灯」、「飲酒運転の禁止」、「二人乗りの禁止（6歳未満の子ども一人の場合を除く）」などで75歳以上の後期高齢者の認知度が他の年齢階層に比べて低くなっている。

図表5-5 自転車の利用・交通ルールの認知状況（経年比較）



図表5-6 自転車の利用・交通ルールの認知状況（年齢階層別）



(3) 自転車利用時に感じる不安や危険

◇自転車利用時に感じる不安や危険は、「歩道と車道の区分がなく、歩行者や自動車と接触しそうなこと」が58.3%で最も高い

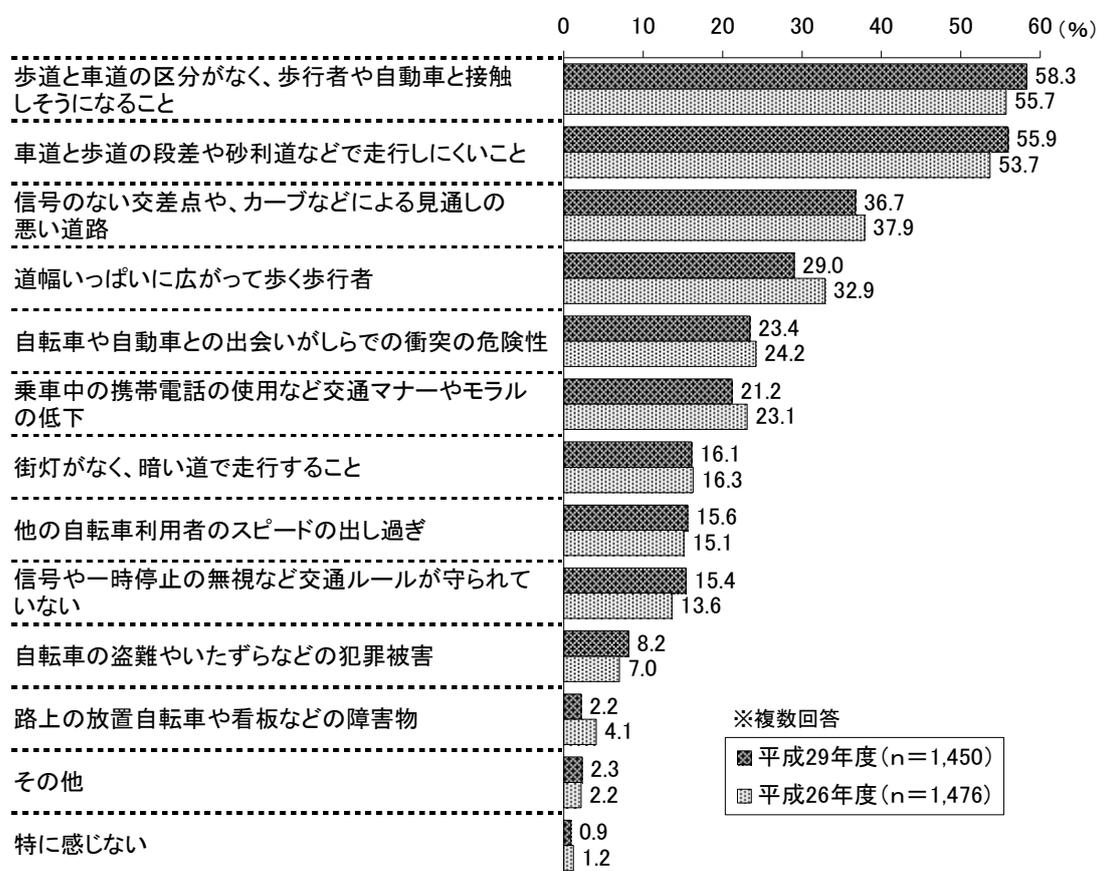
自転車利用時に感じる不安や危険は、「歩道と車道の区分がなく、歩行者や自動車と接触しそうなこと」が58.3%で最も高く、次いで「車道と歩道の段差や砂利道などで走行しにくいこと」が55.9%となっている。

平成26年度調査と比較すると、「歩道と車道の区分がなく、歩行者や自動車と接触しそうなこと」は2.6ポイント増加している。一方、「道幅いっぱい広がって歩く歩行者」は3.9ポイント減少している。

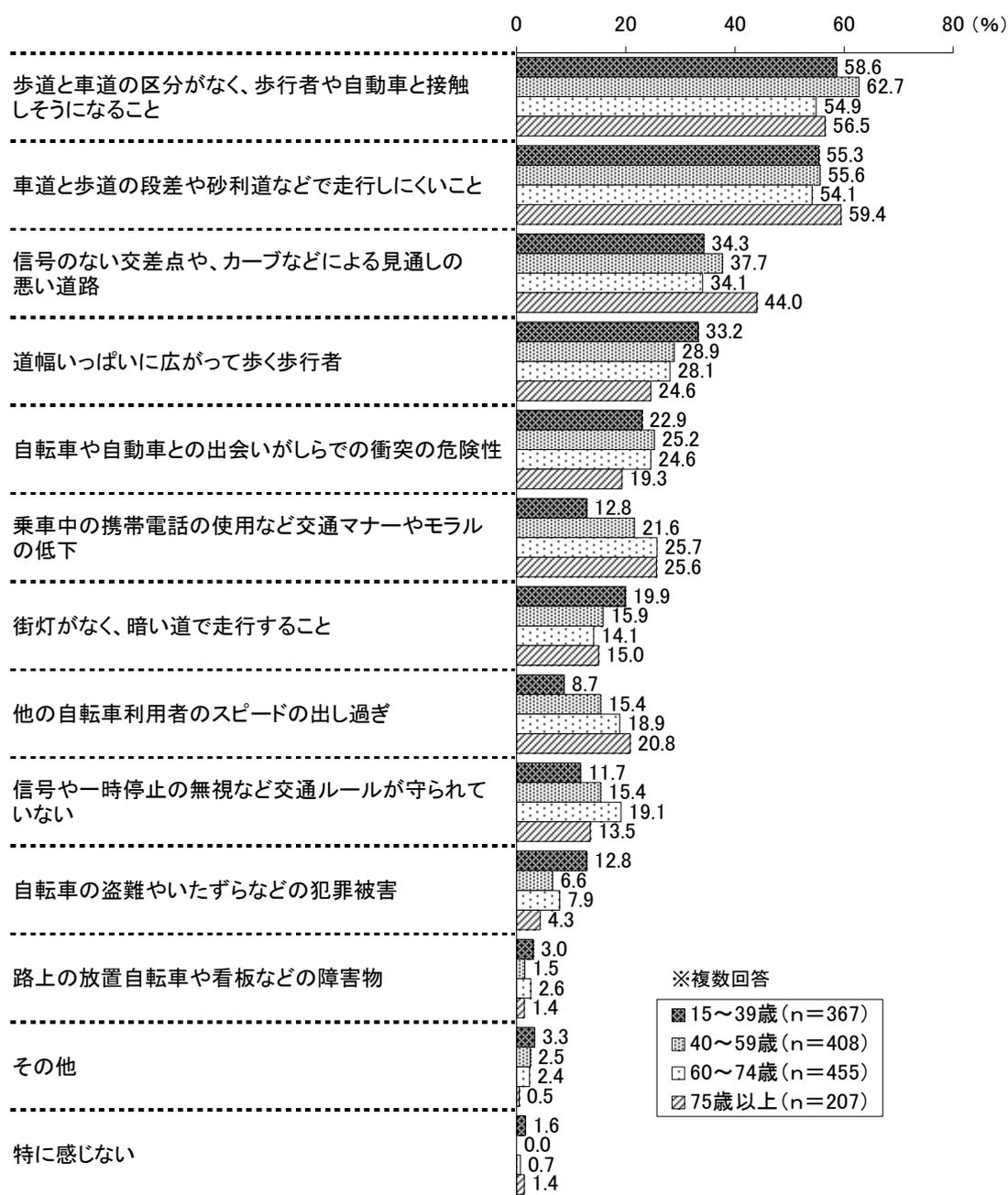
◇「道幅いっぱい広がって歩く歩行者」は年齢階層が下がるほど割合が高く、「他の自転車利用者のスピードの出し過ぎ」は年齢階層が上がるほど割合が高い

年齢階層別でみると、「道幅いっぱい広がって歩く歩行者」は年齢階層が下がるほど割合が高くなっている。一方、「他の自転車利用者のスピードの出し過ぎ」は年齢階層が上がるほど割合が高くなっている。

図表5-7 自転車利用時に感じる不安や危険（経年比較）



図表 5-8 自転車利用時に感じる不安や危険（年齢階層別）



(4) 自転車利用時のけがや事故の経験

◇過去5年間の自転車利用時のけがや事故の経験は、「ある」が17.9%

◇けがや事故がおきた時間帯は、「昼間（通勤・通学時間以外）」が42.1%で最も高い

過去5年間の自転車利用時のけがや事故の経験は、「ある」が17.9%、「ない」は82.1%となっている。

平成26年度調査と比較すると、「ある」は2.8ポイント増加している。

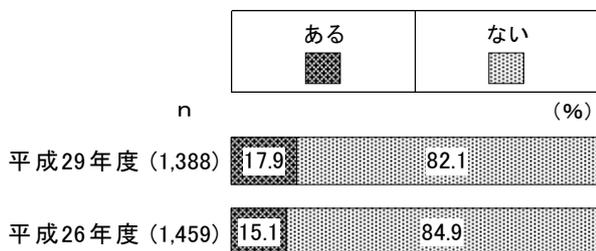
また、自転車利用時のけがや事故の件数は、「1件」が73.2%で最も高く、次いで「2件」が16.4%、「3件以上」が10.3%となっている。

平成26年度調査と比較すると、「1件」は3.9ポイント増加している。

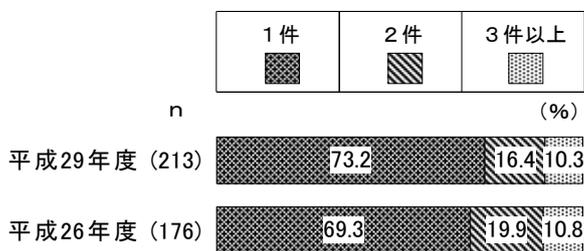
けがや事故がおきた時間帯は、「昼間（通勤・通学時間以外）」が42.1%で最も高く、次いで「朝の通勤・通学時間帯」が24.1%、「夕方の帰宅時間帯」が22.8%となっている。

平成26年度調査と比較すると、「朝の通勤・通学時間帯」は2.7ポイント、「昼間（通勤・通学時間以外）」は2.3ポイント、それぞれ増加している。一方、「夜間（19:00頃～22:00頃）」は4.6ポイント減少している。

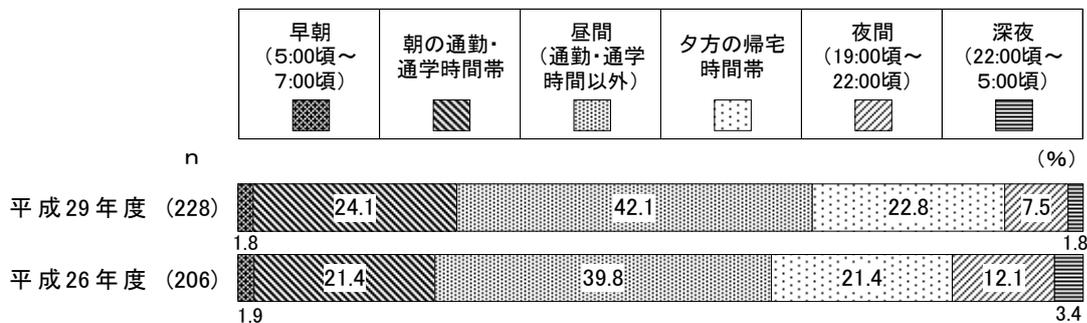
図表5-9 過去5年間の自転車利用時のけがや事故の経験（経年比較）



図表5-10 過去5年間の自転車利用時のけがや事故の件数（経年比較）



図表5-11 けがや事故がおきた時間帯（経年比較）



(5) 自転車利用時のけがや事故がおきた場所、状況、原因

◇過去5年間で自転車利用時のけがや事故がおきた場所は、「歩道」が44.8%で最も高い

◇けがや事故の状況は、「自分だけ転倒した」が66.1%で最も高い

◇けがや事故がおきた原因は、「道路に段差があった」が35.9%で最も高い

過去5年間で自転車利用時のけがや事故がおきた場所は、「歩道」が44.8%で最も高く、次いで「車道」が29.7%、「交差点」が13.4%となっている。

平成26年度調査と比較すると、「車道」は2.0ポイント減少している。

けがや事故の状況は、「自分だけ転倒した」が66.1%で最も高く、次いで「自動車やバイクと接触・衝突した」が19.1%、「自転車同士で接触・衝突した」が8.9%となっている。

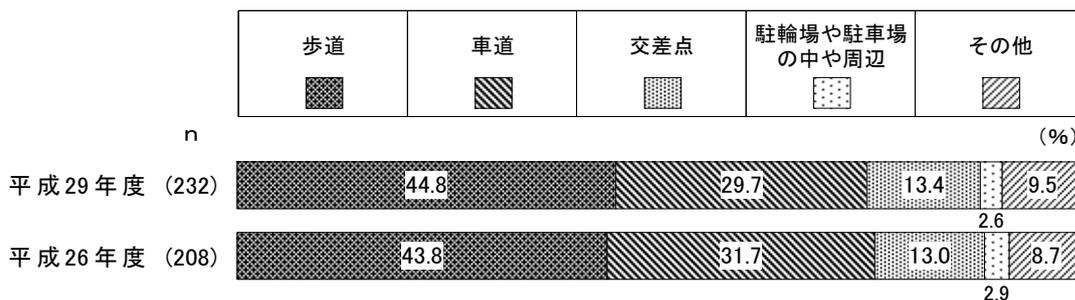
平成26年度調査と比較すると、「自分だけ転倒した」は10.5ポイント増加している。一方、「自転車同士で接触・衝突した」は8.5ポイント減少している。

けがや事故がおきた原因は、「道路に段差があった」が35.9%で最も高く、次いで「道路が狭かった」が20.3%、「出会いがしらでの衝突」が12.7%となっている。

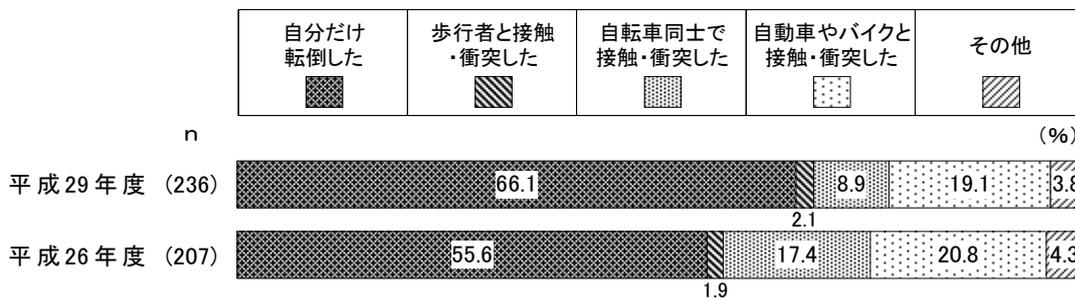
平成26年度調査と比較すると、「歩行者が道いっぱいに広がって歩いていた」は4.2ポイント増加している。一方、「出会いがしらでの衝突」は3.6ポイント減少している。

また、けがや事故がおきた原因を、けがをした場所別でみると、「道路に段差があった」、「道路が狭かった」、「信号や標識、カーブミラーがなく見通しが悪かった」など多くの項目で“歩道”が第1位となっている。また、「出会いがしらでの衝突」と「信号や一時停止の無視など交通ルールを守らなかった」では“交差点”が第1位となっている。

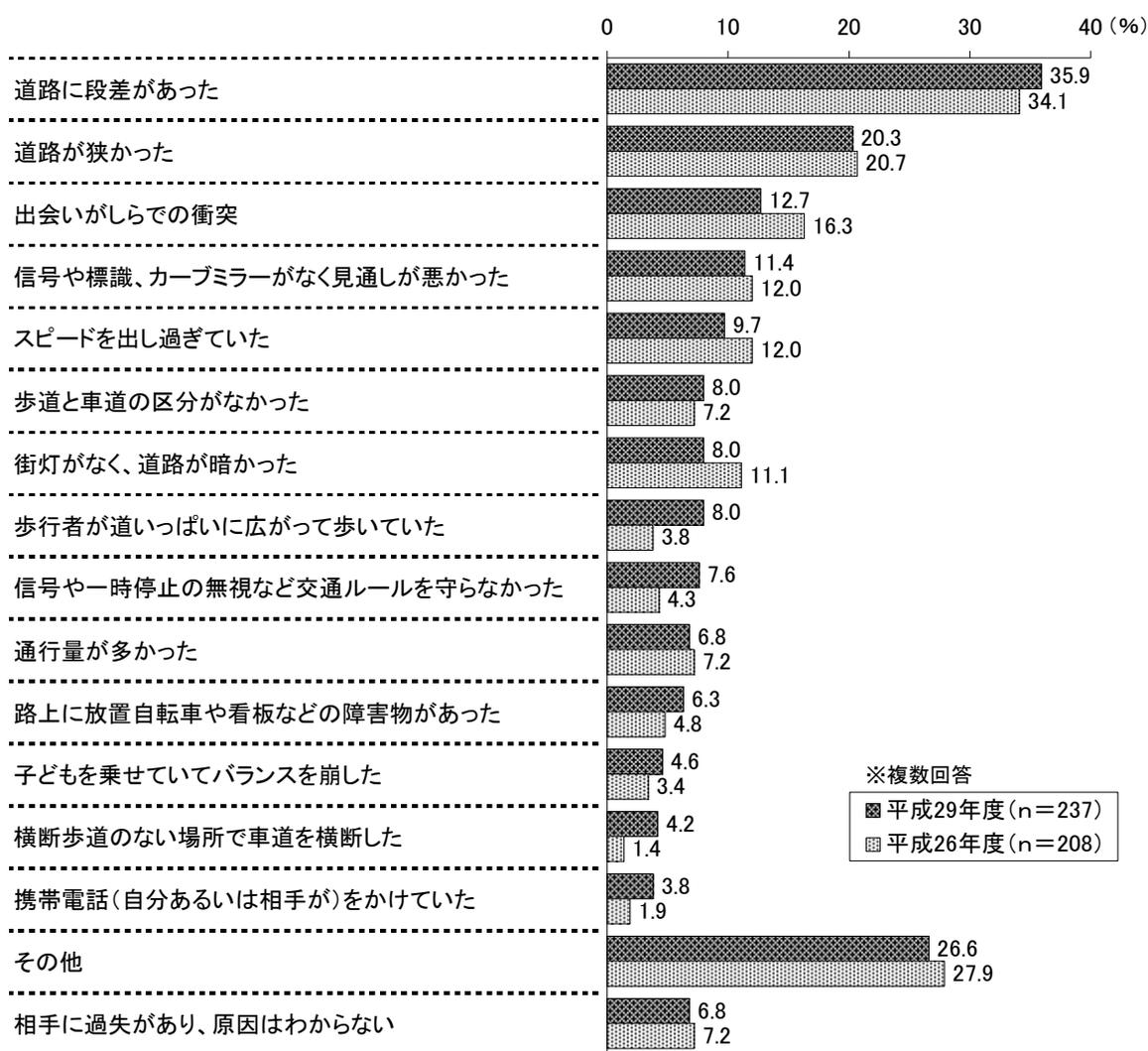
図表5-12 けがや事故がおきた場所（経年比較）



図表5-13 けがや事故の状況（経年比較）



図表 5-14 けがや事故がおきた原因（経年比較）



図表 5-15 けがや事故がおきた原因（けがをした場所別）－上位3項目

(%)

項目	順位	n	1位	2位	3位
道路に段差があった		81	歩道 (48.1)	車道 (33.3)	その他 (11.1)
道路が狭かった		45	歩道 (44.4)	車道 (28.9)	その他 (15.6)
出会いがしらの衝突		28	交差点 (35.7)	歩道／車道 (28.6)	
信号や標識、カーブミラーがなく 見通しが悪かった		24	歩道 (37.5)	車道 (29.2)	交差点 (25.0)
スピードを出し過ぎていた		19	歩道 (42.1)	車道 (26.3)	交差点 (21.1)
歩道と車道の区がなかった		18	車道 (50.0)	歩道 (33.3)	その他 (11.1)
街灯がなく、道路が暗かった		16	歩道 (43.8)	その他 (31.3)	車道 (18.8)
歩行者が道いっぱいに広がって 歩いていた		16	歩道 (62.5)	車道 (18.8)	交差点 (12.5)
信号や一時停止の無視など交通ルール を守らなかった		15	交差点 (60.0)	歩道／車道 (20.0)	
通行量が多かった		15	歩道 (40.0)	車道 (33.3)	交差点／その他 (13.3)
路上に放置自転車や看板などの障害物 があった		14	歩道 (57.1)	車道／交差点 (21.4)	
子どもを乗せていてバランスを崩した		10	歩道／車道 (40.0)		交差点／駐輪場や駐車 場の中や周辺 (10.0)
横断歩道のない場所で車道を横断した		8	車道 (62.5)	交差点 (25.0)	歩道 (12.5)
携帯電話(自分あるいは相手が)を かけていた		7	車道 (57.1)	交差点 (28.6)	その他 (14.3)
その他		62	歩道 (46.8)	車道 (25.8)	その他 (12.9)
相手に過失があり、原因はわからない		16	歩道 (50.0)	交差点 (31.3)	車道 (18.8)

(6) 自転車利用時にけがをした体の箇所と医療機関での治療状況

◇過去5年間で自転車利用時にけがをした体の箇所は、「脚部」が45.9%で最も高い

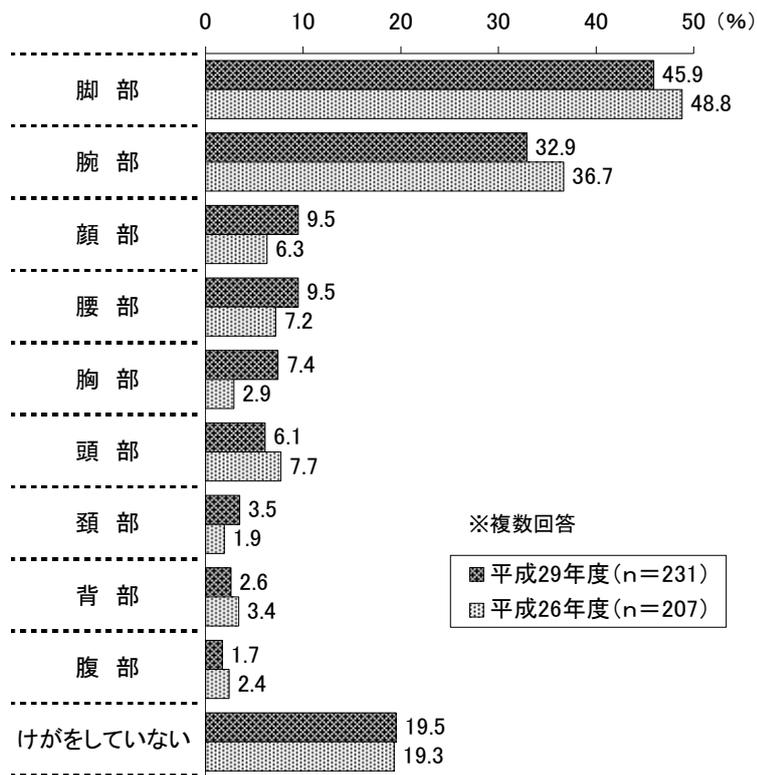
◇医療機関での治療状況は、「通院により手当を受けた」が33.3%、「入院して手当を受けた」が1.8%となっており、医療機関を利用した人は35.1%

過去5年間で自転車利用時にけがをした体の箇所は、「脚部」が45.9%で最も高く、次いで「腕部」が32.9%、「顔部」と「腰部」がともに9.5%となっている。

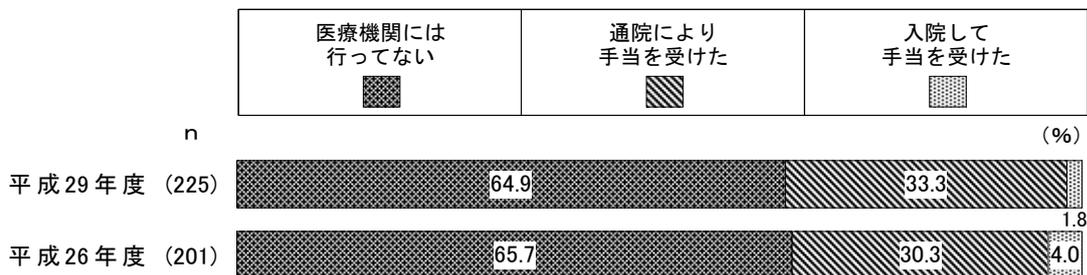
平成26年度調査と比較すると、「胸部」は4.5ポイント増加している。一方、「腕部」は3.8ポイント減少している。

医療機関での治療状況は、「通院により手当を受けた」が33.3%、「入院して手当を受けた」が1.8%となっており、医療機関を利用した人は35.1%となっている。一方、「医療機関には行っていない」は64.9%となっている。

図表 5-16 けがをした体の箇所（経年比較）



図表 5-17 医療機関での治療状況（経年比較）



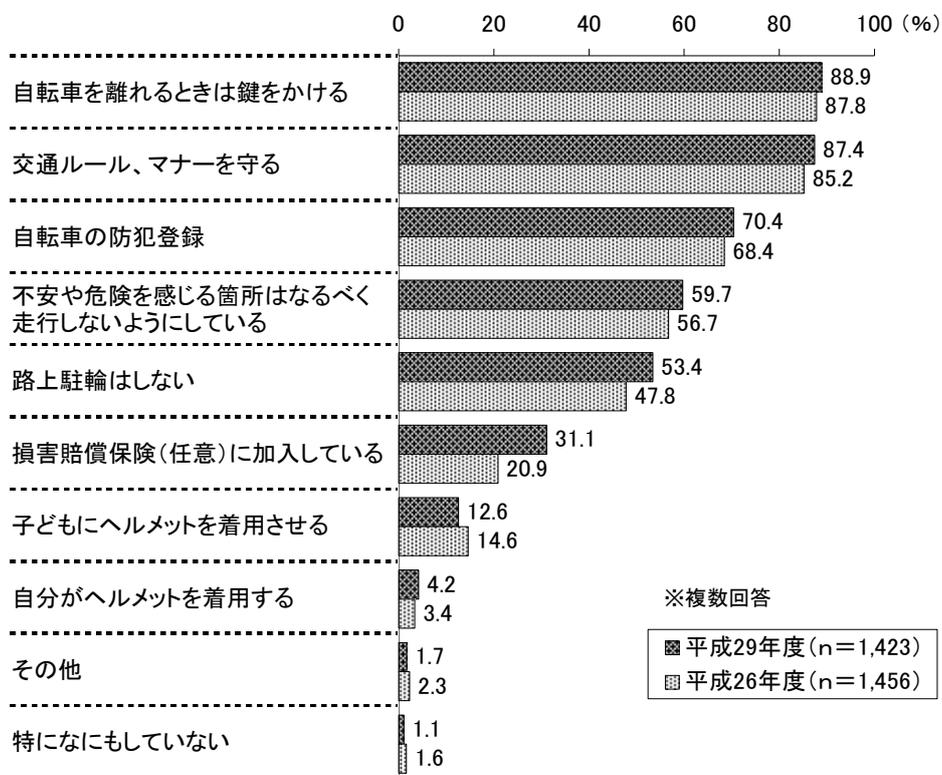
(7) 自転車利用の不安や危険を減少させるためにしていること

◇自転車利用の不安や危険を減少させるためにしていることは、「自転車を離れるときは鍵をかける」が88.9%で最も高い

自転車利用の不安や危険を減少させるためにしていることは、「自転車を離れるときは鍵をかける」が88.9%で最も高く、次いで「交通ルール、マナーを守る」が87.4%、「自転車の防犯登録」が70.4%となっている。

平成26年度調査と比較すると、「損害賠償保険（任意）に加入している」は10.2ポイント、「路上駐輪はしない」は5.6ポイント、それぞれ増加している。

図表5-18 自転車利用の不安や危険を減少させるためにしていること（経年比較）



※「損害賠償保険（任意）に加入している」は、平成26年度調査では「自転車を盗まれたり、事故にあった（おこしてしまった）ときのために、損害賠償保険（任意）に加入している」としていた

(8) 自転車利用の不安や危険を改善するために必要なこと

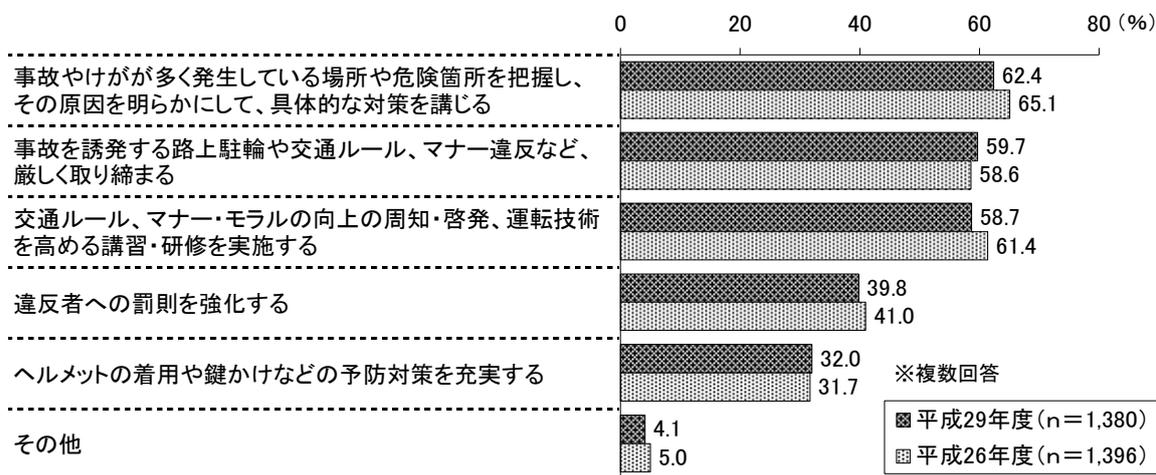
◇自転車利用の不安や危険を改善するために必要なことは、「事故やけがが多く発生している場所や危険箇所を把握し、その原因を明らかにして、具体的な対策を講じる」が62.4%で最も高い

自転車利用の不安や危険を改善するために必要なことは、「事故やけがが多く発生している場所や危険箇所を把握し、その原因を明らかにして、具体的な対策を講じる」が62.4%で最も高く、次いで「事故を誘発する路上駐輪や交通ルール、マナー違反など、厳しく取り締まる」が59.7%となっている。

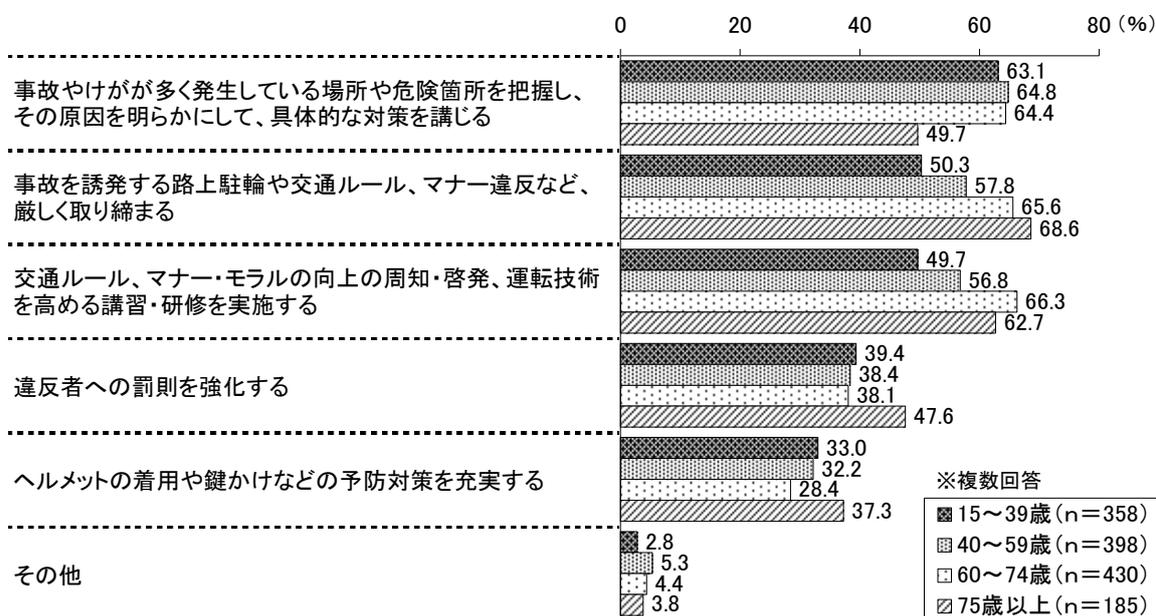
平成26年度調査と比較すると、「事故やけがが多く発生している場所や危険箇所を把握し、その原因を明らかにして、具体的な対策を講じる」と「交通ルール、マナー・モラルの向上の周知・啓発、運転技術をもつ高める講習・研修を実施する」はともに2.7ポイント減少している。

年齢階層別でみると、「事故を誘発する路上駐輪や交通ルール、マナー違反など、厳しく取り締まる」は年齢階層が上がるほど割合が高く、75歳以上の後期高齢者では68.6%となっている。

図表5-19 自転車利用の不安や危険を改善するために必要なこと（経年比較）



図表5-20 自転車利用の不安や危険を改善するために必要なこと（年齢階層別）



6. 災害についての意識

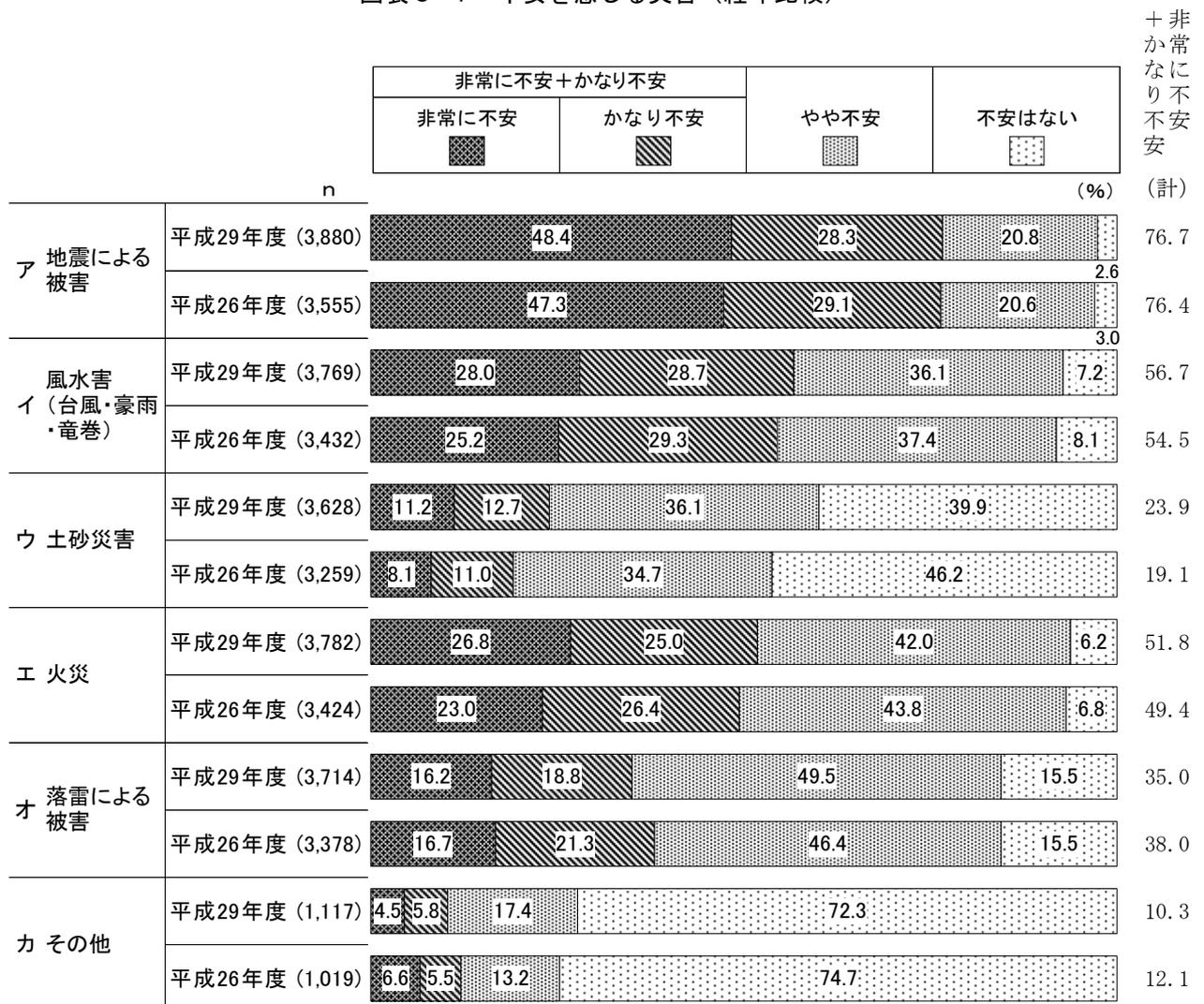
(1) 不安を感じる災害

◇不安を感じる災害について、「非常に不安」と「かなり不安」と答えた人の割合は、「地震による被害」が76.7%で最も高い

不安を感じる災害について、「非常に不安」と「かなり不安」と答えた人の割合は、「地震による被害」で76.7%と最も高く、次いで「風水害（台風・豪雨・竜巻）」で56.7%、「火災」で51.8%となっている。

平成26年度調査と比較すると、不安を感じる災害について、「非常に不安」と「かなり不安」と答えた人の割合は、「土砂災害」で4.8ポイント増加している。

図表6-1 不安を感じる災害（経年比較）



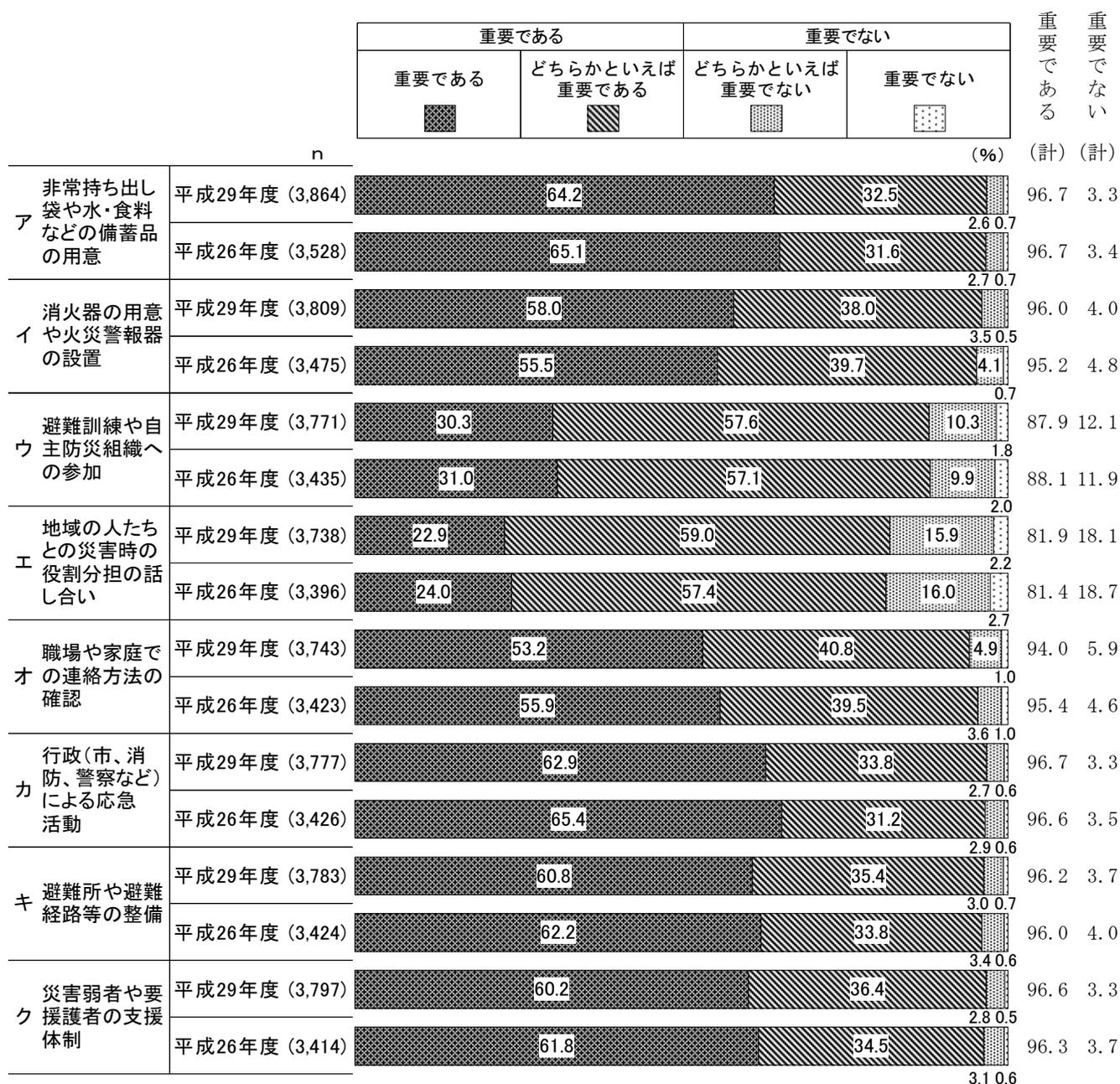
(2) 災害対策の重要度

◇災害対策について、「重要である」と「どちらかといえば重要である」と答えた人の割合は、「非常持ち出し袋や水・食料などの備蓄品の用意」と「行政（市、消防、警察など）による応急活動」がともに96.7%で高い

災害対策について、「重要である」と「どちらかといえば重要である」と答えた人の割合は、「非常持ち出し袋や水・食料などの備蓄品の用意」と「行政（市、消防、警察など）による応急活動」がともに96.7%で高く、次いで「災害弱者や要援護者の支援体制」で96.6%となっており、全ての項目で80%を超えている。

平成26年度調査と比較すると、ほぼ同様の傾向となっている。

図表6-2 災害対策の重要度（経年比較）



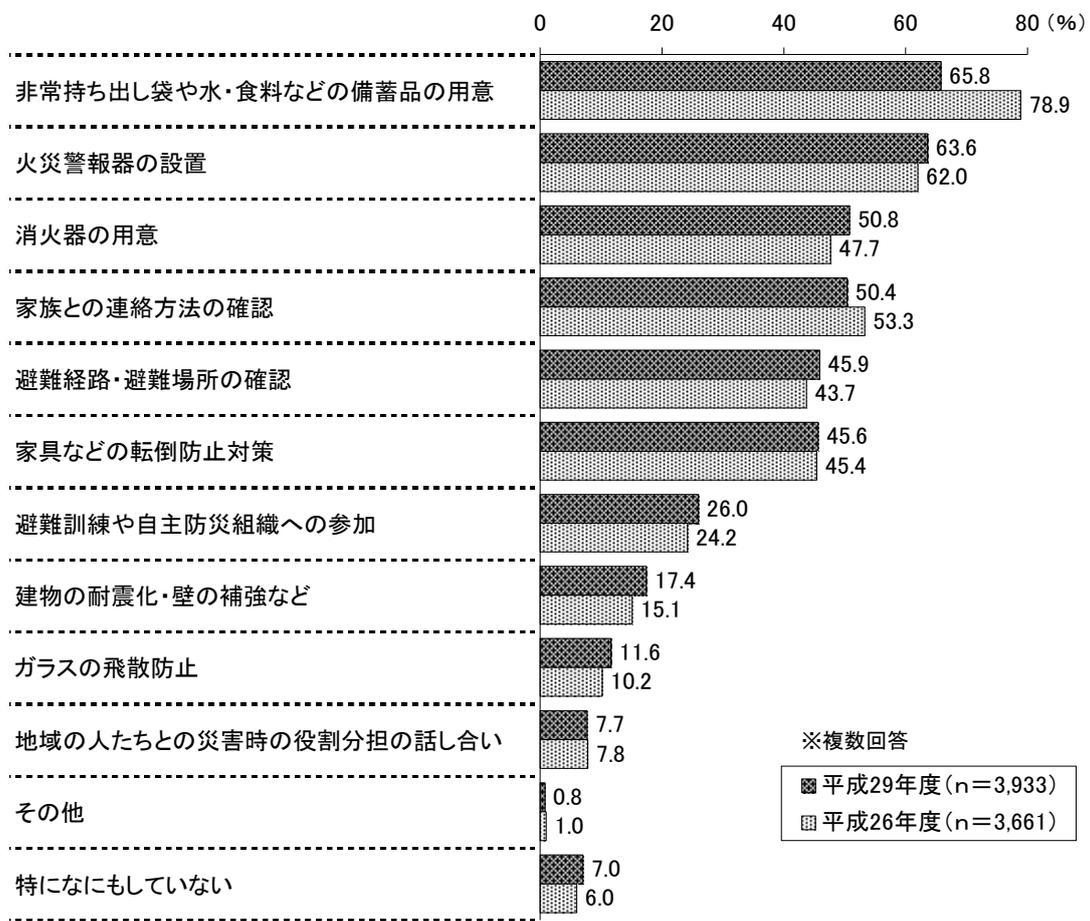
(3) 災害に対する自己対策

◇災害に対する自己対策は、「非常持ち出し袋や水・食料などの備蓄品の用意」が 65.8%
で最も高い

災害に対する自己対策は、「非常持ち出し袋や水・食料などの備蓄品の用意」が 65.8%で最も高く、次いで「火災警報器の設置」が 63.6%、「消火器の用意」が 50.8%となっている。

平成 26 年度調査と比較すると、「消火器の用意」は 3.1 ポイント増加している。一方、「非常持ち出し袋や水・食料などの備蓄品の用意」は 13.1 ポイント減少している。

図表 6-3 災害に対する自己対策（経年比較）



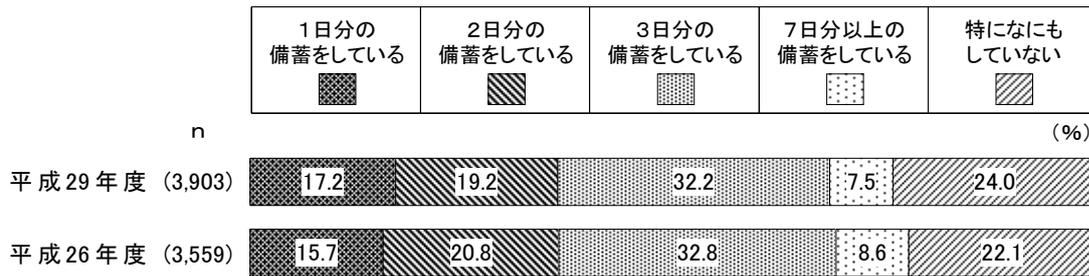
(4) 非常用備蓄品の状況

◇非常用備蓄品の状況は、「3日分の備蓄をしている」が32.2%で最も高い

非常用備蓄品の状況は、「3日分の備蓄をしている」が32.2%で最も高くなっており、非常用備蓄品を備蓄している人の割合は76.1%となっている。

平成26年度調査と比較すると、ほぼ同様の傾向となっている。

図表6-4 非常用備蓄品の状況（経年比較）



7. 「セーフコミュニティ」の認知状況

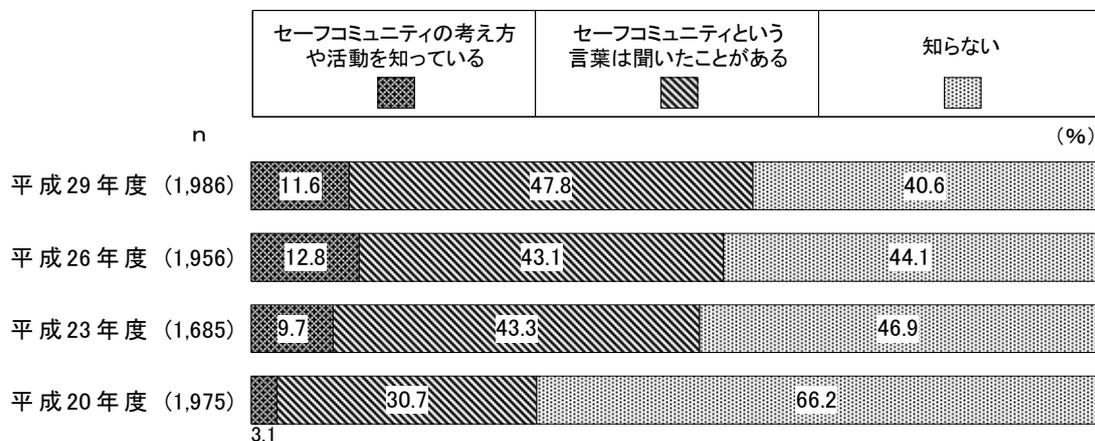
(1) 厚木市の取組の認知状況

◇「セーフコミュニティ」の認知度は59.4%、平成26年度調査より3.5ポイント増加

「セーフコミュニティ」の認知状況は、「セーフコミュニティの考え方や活動を知っている」が11.6%、「セーフコミュニティという言葉は聞いたことがある」は47.8%となっており、認知度は59.4%となっている。

過年度調査と比較すると、認知度は平成20年度調査以降増加傾向にあり、平成26年度調査より3.5ポイント増加している。

図表7-1 「セーフコミュニティ」の認知状況（経年比較）



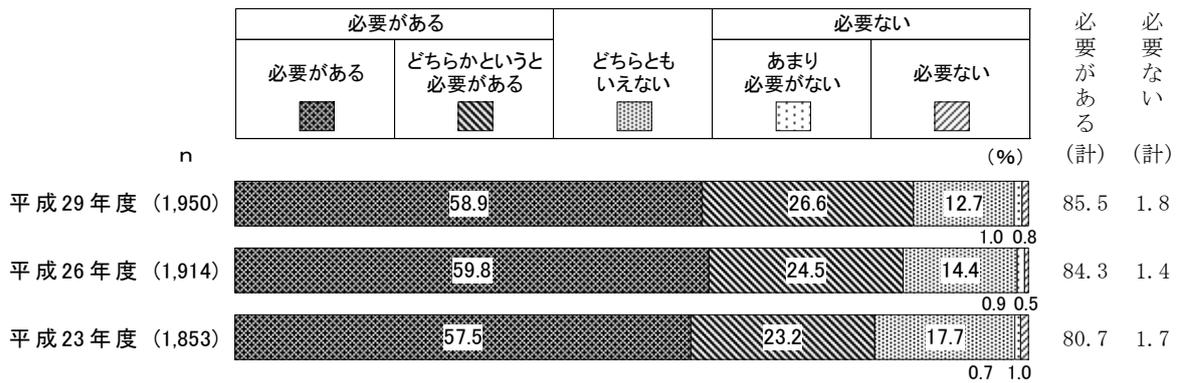
(2) 今後の「セーフコミュニティ」の取組に関する意識

◇今後の「セーフコミュニティ」の取組の推進について、必要がある人の割合は85.5%

今後の「セーフコミュニティ」の取組の推進について、「必要がある」が58.9%、「どちらかという必要がある」は26.6%となっており、必要がある人の割合は85.5%となっている。

過年度調査と比較すると、必要がある人の割合は、平成23年度調査以降増加傾向にある。

図表7-2 今後の「セーフコミュニティ」の取組に関する意識（経年比較）



8. 市民生活の安心・安全に関する意識

(1) 居住地域の安心・安全に関する意識

◇居住地域が安心・安全かどうかについて、居住地域が安心・安全だと思う人の割合は68.9%、平成26年度調査より4.6ポイント増加

市全体では、居住地域が安心・安全かどうかについて、「そう思う」が22.0%、「どちらかといえばそう思う」は46.9%となっており、居住地域が安心・安全だと思う人の割合は68.9%となっている。

過年度調査と比較すると、居住地域が安心・安全だと思う人の割合は、平成20年度調査以降増加傾向にあり、平成26年度調査より4.6ポイント増加している。

◇居住地区別では、居住地域が安心・安全だと思う人の割合は、森の里地区で90.5%と最も高い

居住地区別で見ると、居住地域が安心・安全だと思う人の割合は、森の里地区で90.5%と最も高く、次いで、荻野地区で75.6%、玉川地区で72.2%となっている。

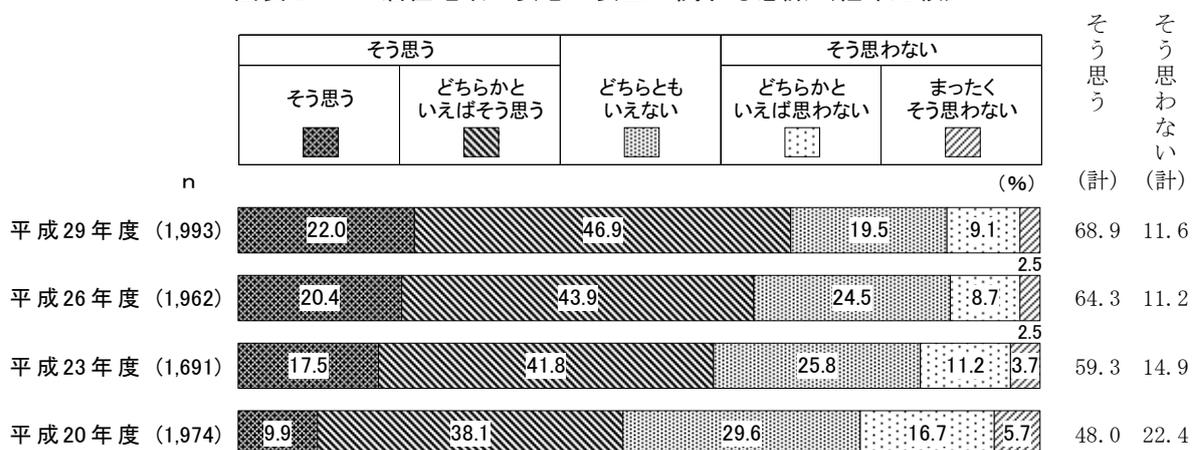
居住地区別を過年度調査と比較すると、居住地域が安心・安全だと思う人の割合は、平成20年度調査との比較では全ての地区、平成26年度調査との比較では13地区でそれぞれ増加となっており、平成26年度調査より南毛利地区で9.0ポイント、厚木北地区で8.0ポイント、それぞれ増加している。一方、「どちらかといえば思わない」と「まったくそう思わない」を合わせた、居住地域が安心・安全だと思わない人の割合は、平成26年度調査より睦合西地区で5.2ポイント、相川地区で4.9ポイント、それぞれ増加している。

◇現在の近所付き合いの状況別では、居住地域が安心・安全だと思う人の割合は、現在の近所付き合いが親密になるほど高い

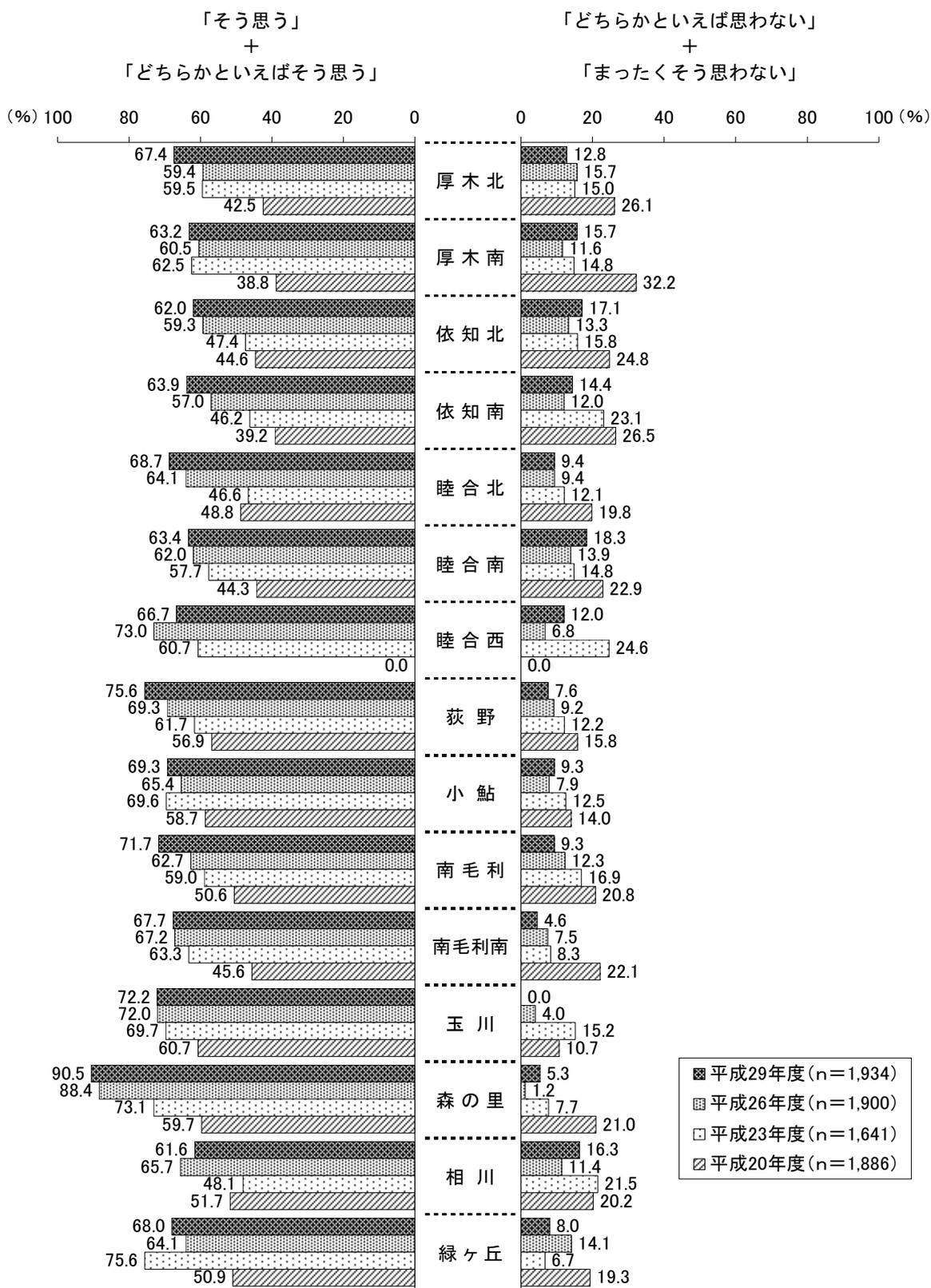
現在の近所付き合いの状況別で見ると、居住地域が安心・安全だと思う人の割合は、現在の近所付き合いが親密になるほど高くなっており、「互いに相談しあうような、生活面での協力関係ができる程度」では76.5%と高くなっている。

過年度調査と比較すると、平成20年度調査以降、同様の傾向となっている。

図表 8-1 居住地域の安心・安全に関する意識（経年比較）

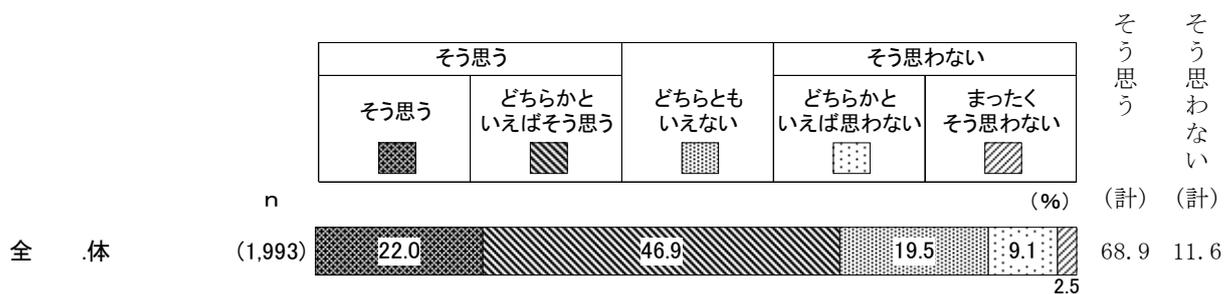


図表 8-2 居住地の安心・安全に関する意識（居住地区別、経年比較）

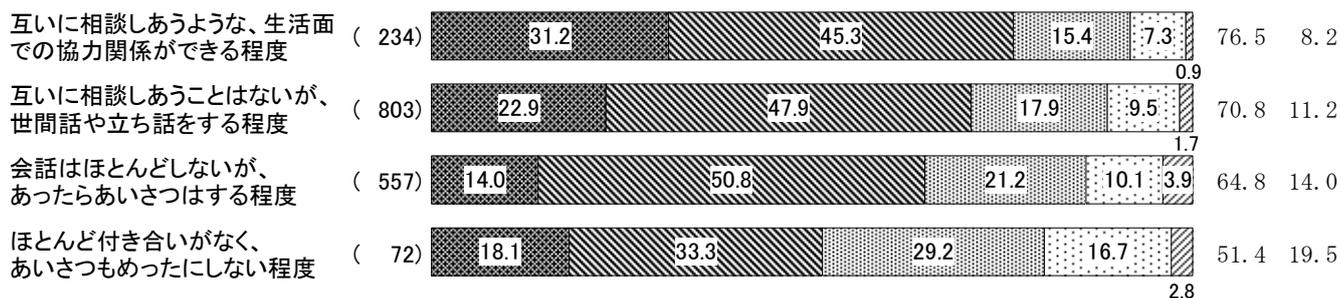


図表 8-3 居住地の安心・安全に関する意識（現在の近所付き合いの状況別、経年比較）

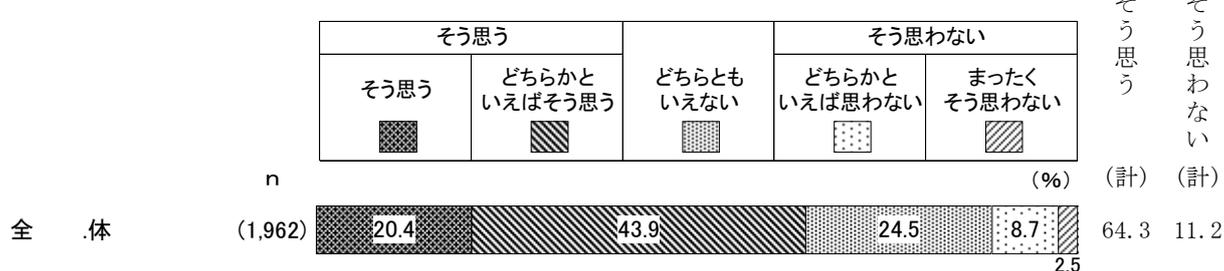
<平成 29 年度調査>



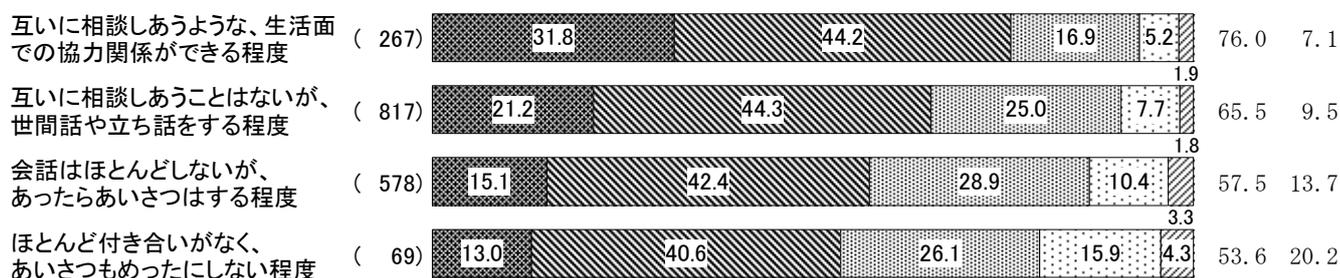
【現在の近所づきあいの状況別】



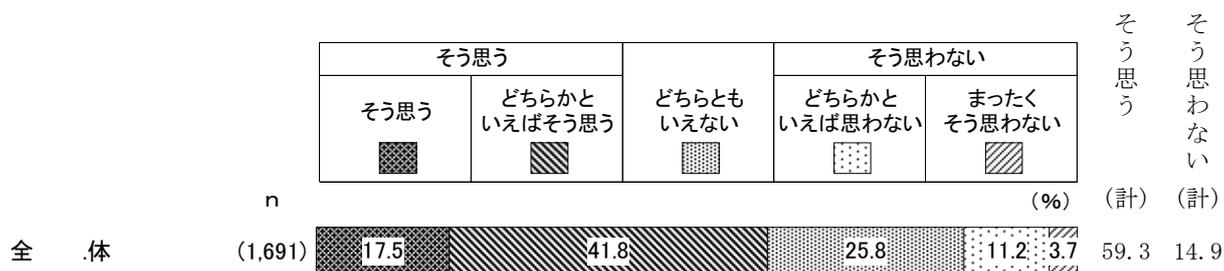
<平成 26 年度調査>



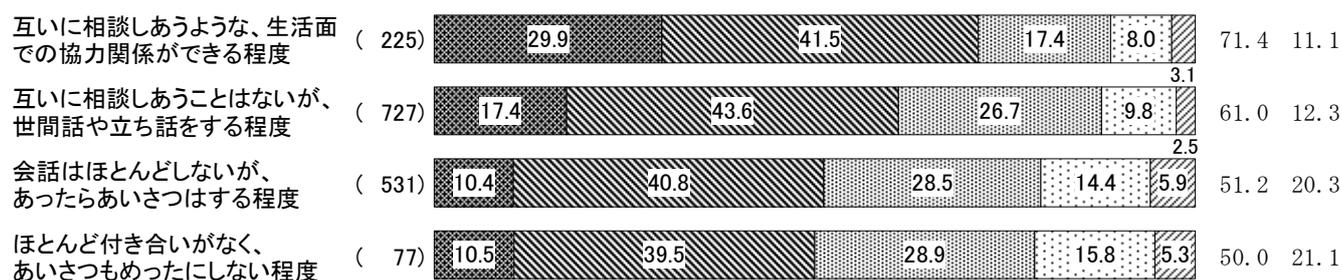
【現在の近所づきあいの状況別】



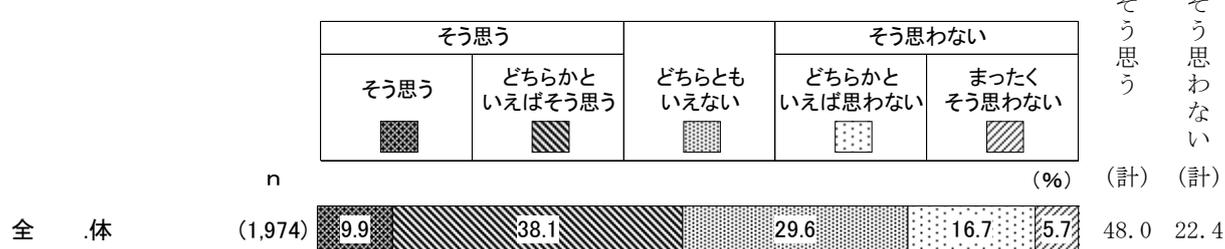
<平成 23 年度調査>



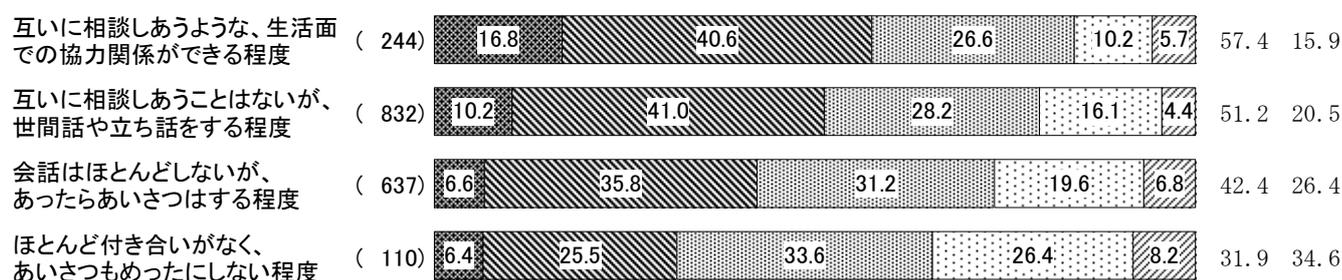
【現在の近所づきあいの状況別】



<平成 20 年度調査>



【現在の近所づきあいの状況別】



(2) 近所付き合いと安心・安全に関する意識

◇現在の近所付き合いの状況は、ある程度の近所付き合いのある人の割合が62.2%

◇今後の近所付き合いの意向では、「互いに相談しあうような、生活面での協力関係ができる程度」が27.3%

現在の近所付き合いの状況は、「互いに相談しあうような、生活面での協力関係ができる程度」が14.1%、「互いに相談しあうことはないが、世間話や立ち話をする程度」は48.1%となっており、この2つを合わせた、ある程度の近所付き合いのある人の割合が62.2%となっている。

今後の近所付き合いの意向では、「互いに相談しあうような、生活面での協力関係ができる程度」が27.3%、「互いに相談しあうことはないが、世間話や立ち話をする程度」は48.9%となっており、今後、より親密な近所付き合いを希望する人の割合が高くなっている。

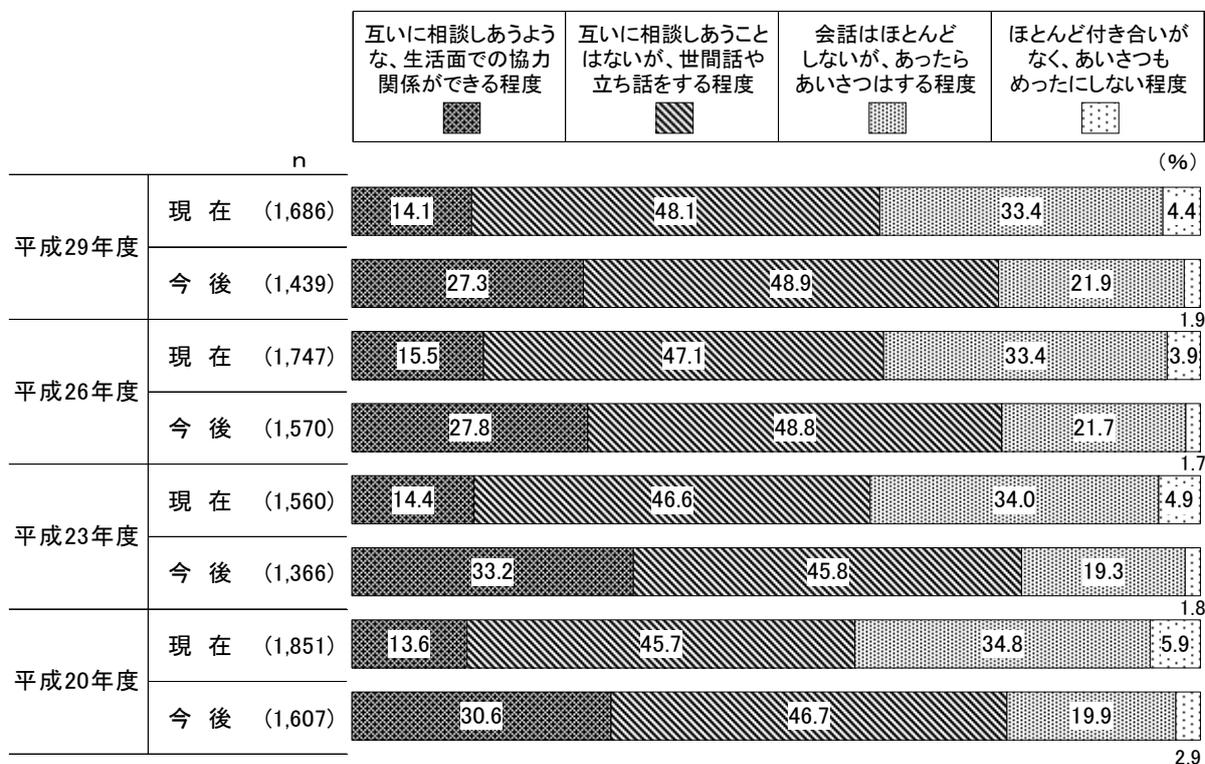
過年度調査と比較すると、平成20年度調査以降、ほぼ同様の傾向となっている。

◇居住地域の安心・安全に関する意識別でみると、今後、より親密な近所付き合いを希望する人では、居住地域が安心・安全だと思う割合が高い

今後の近所付き合いの意向を居住地域の安心・安全に関する意識別でみると、今後、より親密な近所付き合いを希望する人では、居住地域が安心・安全だと思う割合が高くなっている。

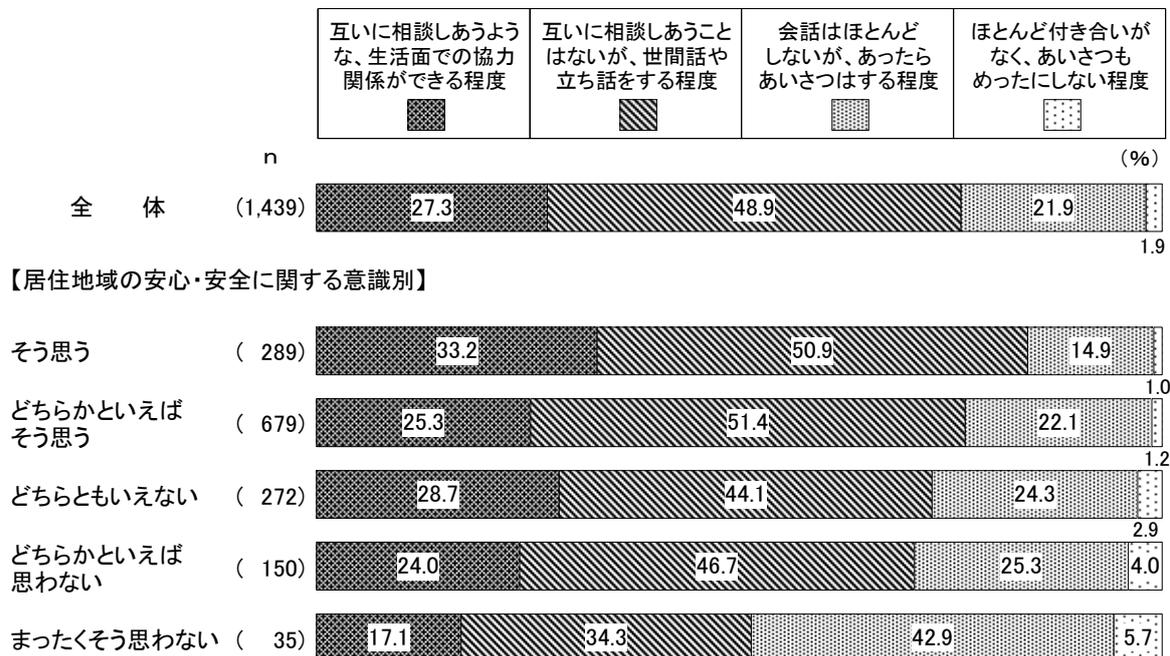
過年度調査と比較すると、平成20年度調査以降、ほぼ同様の傾向となっている。

図表8-4 現在の近所付き合いの状況と今後の意向（経年比較）

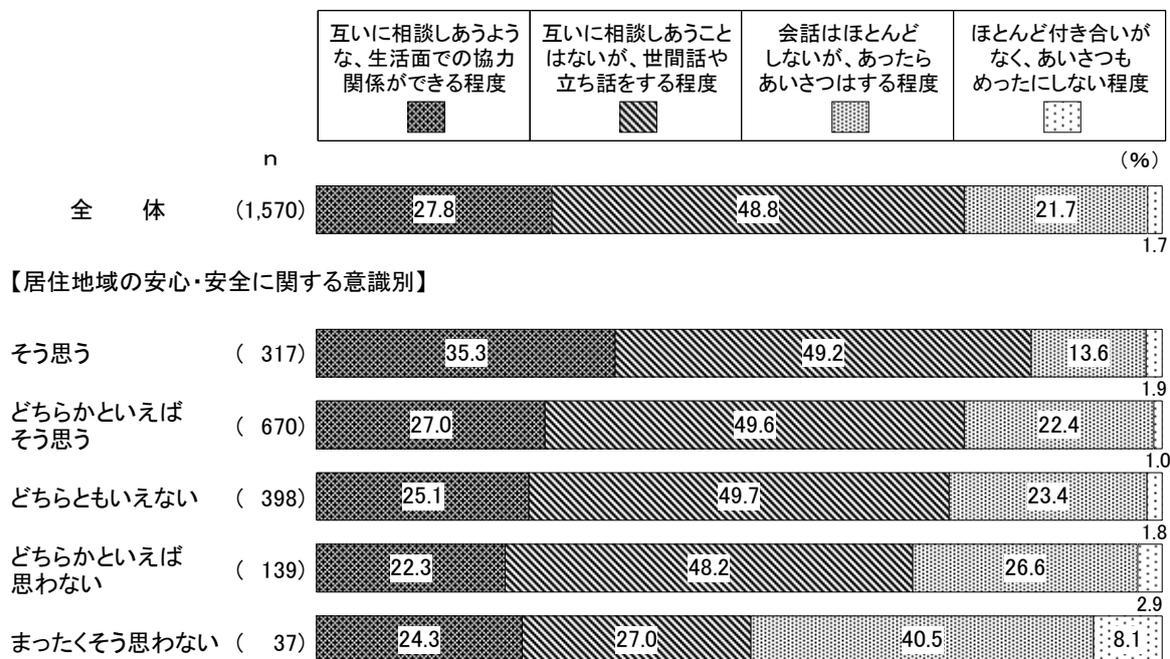


図表 8-5 今後の近所付き合いの意向（居住地域の安心・安全に関する意識別、経年比較）

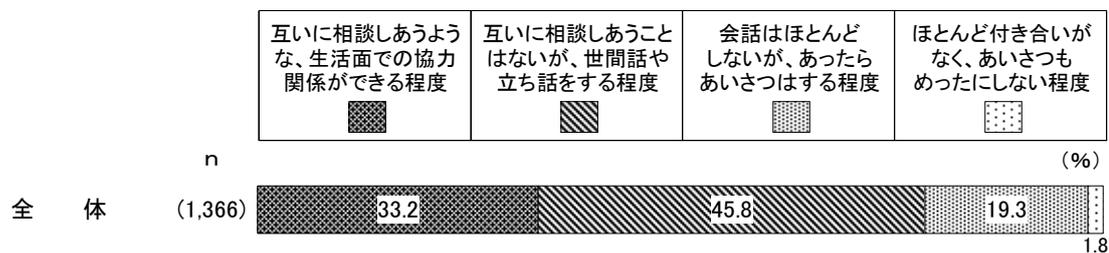
<平成 29 年度調査>



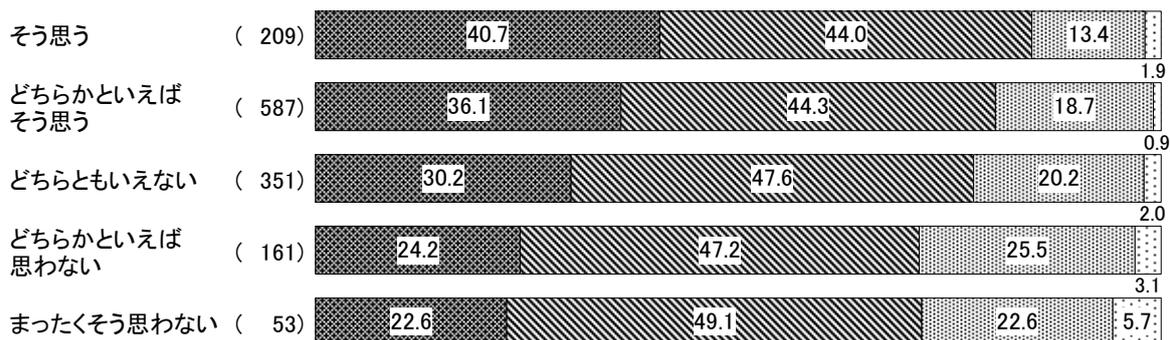
<平成 26 年度調査>



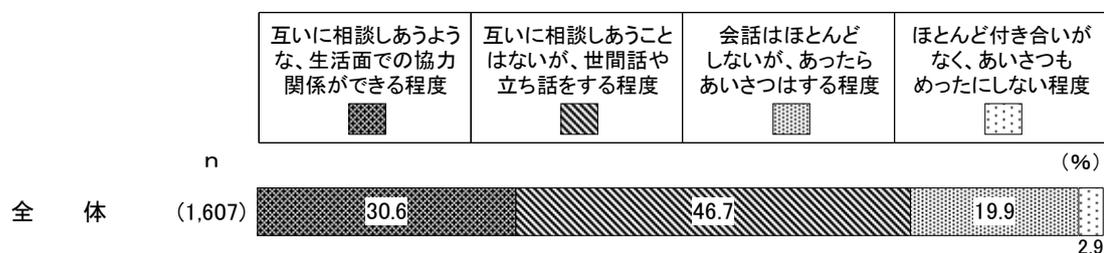
<平成 23 年度調査>



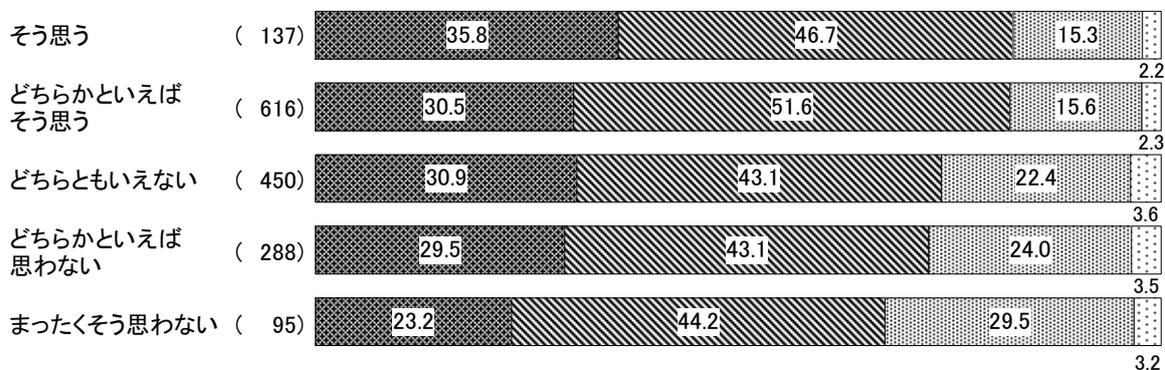
【居住地域の安心・安全に関する意識別】



<平成 20 年度調査>



【居住地域の安心・安全に関する意識別】



IV 調査票と集計結果

世帯票

世帯主あるいは世帯を代表される方、どなたかお一人の方が、世帯を代表してご記入ください。

あなたの世帯についておたずねします

問1. お住まいのある地区は、次のどこですか。(1つに○) n=1,951

1. 厚木北 (10.1) 2. 厚木南 (9.6) 3. 依知北 (6.9) 4. 依知南 (5.1) 5. 睦合北 (3.3)
6. 睦合南 (7.9) 7. 睦合西 (3.9) 8. 荻野 (11.6) 9. 小鮎 (7.2) 10. 南毛利 (17.2)
11. 南毛利南 (3.4) 12. 玉川 (1.8) 13. 森の里 (4.9) 14. 相川 (4.5) 15. 緑ヶ丘 (2.6)

問2. あなたは現在のお住まいに住んで何年になりますか。(1つに○) n=1,993

1. 1年未満 (4.4) 2. 1年以上5年未満 (12.8) 3. 5年以上10年未満 (10.3)
4. 10年以上15年未満 (9.7) 5. 15年以上20年未満 (9.7) 6. 20年以上 (53.1)

問3. 現在、一緒に暮らしているご家族はあなたを含めて何人ですか。

自分も含めて 人

ご家族のうち、過去1年の間にけがをした方は何人いますか。

自分も含めて 人

ご家族のうち次の1～6に該当する方はいますか。(当てはまるものすべてに○) n=585

1. 12歳未満の女の子 (21.9) 2. 12歳未満の男の子 (25.0)
3. 12歳以上18歳未満の女の子 (16.2) 4. 12歳以上18歳未満の男の子 (14.9)
5. 介助、見守りの必要な18歳以上65歳未満の方 (5.5)
6. 介助、見守りの必要な65歳以上の方 (36.4)

問4. あなたのお住まいの種類は次のうちどれですか。(1つに○)

なお、「3. 集合住宅」に該当する方は何階にお住まいかご記入ください。 n=1,999

1. 戸建て(平屋) (6.8) 2. 戸建て(2階以上) (58.7) 3. 集合住宅(階) (33.3)
4. その他() (1.2)

セーフコミュニティについておたずねします

問5. 平成22年11月に厚木市はWHO(世界保健機関)が推奨するセーフコミュニティ認証を取得しました。あなたは、セーフコミュニティの取組をご存知ですか。(1つに○)

n=1,986

1. セーフコミュニティの考え方や活動を知っている (11.6)
2. セーフコミュニティという言葉は聞いたことがある (47.8)
3. 知らない (40.6)

問6. 市民や行政などが協働して、安心・安全なまちづくりを進めるセーフコミュニティの取組を、今後も継続して推進していく必要があると思いますか。(1つに○) n=1,950

1. 必要がある (58.9) 2. どちらかといえば必要がある (26.6) 3. どちらともいえない (12.7)
4. あまり必要がない (1.0) 5. 必要ない (0.8)

厚木市での暮らしについておたずねします

問7. あなたのお住まいの地域は、総じて安心で安全だと思いますか。(1つに○) n=1,993

1. そう思う (22.0) 2. どちらかといえばそう思う (46.9) 3. どちらともいえない (19.5)
4. どちらかといえば思わない (9.1) 5. まったくそう思わない (2.5)

問 8. あなたは、ご近所の方との程度お付き合いがありますか。また、今後はどの程度お付き合いをしたいですか。(現在、今後、それぞれ該当する欄1つに○) n=1,686 n=1,439

お 付 き 合 い の 程 度	現 在	今 後
1. 互いに相談しあうような、生活面での協力関係ができる程度	14.1	27.3
2. 互いに相談しあうことはないが、世間話や立ち話をする程度	48.1	48.9
3. 会話はほとんどしないが、あったらあいさつはする程度	33.4	21.9
4. ほとんど付き合いがなく、あいさつもめったにしない程度	4.4	1.9

お子さん(0~15歳未満)がいる方におたずねします
(2人以上いる方は年齢が一番下のお子さんについてお答えください)

問 9. お子さんの年齢をご記入ください。(数字を記入ください) 歳

問 10. 過去1年の間に、お子さんが**自宅以外で**、事故やけがをした状況についてお答えください。その際、回りに大人はいましたか。医療機関には行きましたか。(当てはまるものすべてに○)

けがをした状況	n=278 n=68 n=45		
	該当するものに○	大人がいた場合に○	医療機関に行った場合に○
1. 海や川、プールなどでおぼれた	0.7	1.5	0.0
2. 交通事故(単独、自転車・自動車の乗車中)	4.3	1.5	11.1
3. 道路や歩道を走っていて転倒	14.4	36.8	13.3
4. 公園(ブランコ・すべり台・鉄棒)でのけが	5.0	10.3	4.4
5. 動物や虫などによるけが	3.2	8.8	4.4
6. 人や物(例:電柱等)に衝突	1.8	2.9	2.2
7. 階段や高所からの転落	1.4	4.4	6.7
8. 建物や車両などのドアに挟まれたけが	1.8	4.4	4.4
9. 学校でのけが・事故(クラブ活動中なども含む)	14.4	30.9	53.3
10. 保育園・幼稚園でのけが・事故	5.8	16.2	11.1
11. その他(具体的に: _____)	3.2	10.3	15.6
12. けがはしていない	61.5		

問 11. 過去1年の間に、お子さんが**自宅で**、事故やけがをした状況についてお答えください。その際、回りに大人はいましたか。医療機関には行きましたか。(当てはまるものすべてに○)

けがをした状況	n=253 n=46 n=12		
	該当するものに○	大人がいた場合に○	医療機関に行った場合に○
1. ベッドや椅子などから転落	4.3	19.6	8.3
2. ベランダや窓の手すりを乗り越え高所から転落	0.0	0.0	0.0
3. 階段から転落	3.2	15.2	16.7
4. たばこやおもちゃなどの異物誤飲	0.4	2.2	8.3
5. 就寝中の窒息	0.0	0.0	0.0
6. 火気や熱湯、暖房器具などの接触によるやけど	3.6	15.2	16.7
7. 入浴中の溺水	0.0	0.0	0.0
8. 廊下や浴室などでの転倒	4.3	15.2	8.3
9. 刃物や鋭利なものによるけが	3.2	10.9	0.0
10. 家具や物に体をぶつけるなどの衝突	9.9	39.1	8.3
11. ドアや窓、家具などで挟まれたけが	5.5	28.3	8.3
12. 動物や虫などによるけが	2.8	8.7	8.3
13. その他(具体的に: _____)	1.6	2.2	25.0
14. けがはしていない	76.3		

個人票

15歳以上の方お一人ずつご記入ください。世帯票を記入された方もご記入ください。

事故やけがについておたずねします

問1. 自宅以外での、事故やけがの状況についてお聞きします。

1-1. 過去1年の間に自宅以外でけがをして手当てを受けたことがありますか。

軽傷、重傷を問わずお答えください。(該当する欄に○あるいは数字を記入) n=3,860

	該当するものに○	けがをした回数
1. けがはしていない	84.7	/
2. けがをしたが、医療機関へは行かなかった	7.8	□
3. けがをして、医療機関に通院した	7.3	□
4. けがをして、医療機関に入院した	1.1	□

1-2. 1-1で、過去1年の間に自宅以外で「けがをした」と回答した方におたずねします。

けがをした原因はなんですか。

(当てはまるものすべてに○、そのうち、通院や入院したのものには◎をつけてください) n=571

- | | | |
|-------------------------|-----------------|------------------|
| 1. 交通事故 (12.8) | 2. 転倒 (51.5) | 3. 転落 (3.0) |
| 4. 接触または衝突 (7.7) | 5. 切傷・刺傷 (24.7) | 6. 挟まれた・加圧 (7.6) |
| 7. 虫刺、咬傷(ハチ、動物など) (9.5) | 8. その他 () | (15.8) |

1-3. 1-1の「過去1年の間に自宅以外でけがをした」場所はどこですか。

(当てはまるものすべてに○)

n=556

- | | | | |
|-----------------|-------------|---------------------|----------------|
| 1. 道路・歩道 (42.4) | 2. 学校 (6.8) | 3. 勤務先 (26.1) | 4. 農地・林地 (6.5) |
| 5. 公園 (3.2) | 6. 駅 (2.7) | 7. 商業・飲食・娯楽施設 (3.4) | |
| 8. スポーツ施設 (8.1) | 9. その他 () | (12.2) | |

問2. 自宅での、事故やけがの状況についてお聞きします。

2-1. 過去1年の間に自宅でけがをして手当てを受けたことがありますか。軽傷、重傷を問わずお答えください。(該当する欄に○あるいは数字を記入)

n=3,435

	該当するものに○	けがをした回数
1. けがはしていない	86.2	/
2. けがをしたが、医療機関へは行かなかった	9.4	□
3. けがをして、医療機関に通院した	4.2	□
4. けがをして、医療機関に入院した	0.5	□

2-2. 2-1で、過去1年の間に自宅で「けがをした」と回答した方におたずねします。一番大きなけがをした原因はなんですか。(1つに○)

n=452

- | | | | |
|--------------|---------------|-----------------|------------------|
| 1. 転倒 (26.3) | 2. 転落 (6.0) | 3. 切傷・刺傷 (43.6) | 4. 挟まれた・加圧 (4.6) |
| 5. 火傷 (8.4) | 6. 異物誤飲 (0.2) | 7. その他 () | (10.8) |

2-3. 「過去1年の間に自宅で一番大きなけがをした」場所はどこですか。(1つに○) n=428

1. 居室 (24.5) 2. 廊下 (4.2) 3. 階段 (6.8) 4. トイレ (0.2)
 5. 浴室 (3.0) 6. 台所 (37.6) 7. 庭 (16.4) 8. その他 () (7.2)

犯罪被害や不安などについておたずねします

問3. あなたがお住まいの地域の治安について、1年前と比べてよくなったとおもいますか、悪くなったとおもいますか。(1つに○) n=3,734

1. 良くなった (3.7) 2. 変わらない (72.8) 3. 悪くなった (10.5) 4. わからない (13.1)

問4. あなたは、日頃、ご自身や家族が犯罪被害などにあうのではないかという不安をどの程度感じていますか。(ア～トのそれぞれについて、1～4の番号のうち1つに○)

なお、該当しない場合(自転車、パソコンを持っていない、子どもはいない等)は、「5」に○をつけてください。

項 目	n	非常に不安	かなり不安	やや不安	不安はない	該当しない
ア. 暴行や傷害などの暴力的な犯罪にあう不安	3,689	5.3	8.8	49.0	36.9	
イ. 自宅にどろぼう(空き巣など)に入られる不安	3,804	10.5	16.4	55.5	17.6	
ウ. ひったくりにあう不安	3,753	5.4	11.5	50.6	32.6	
エ. 自転車を盗まれる不安	3,784	6.3	11.5	31.1	21.9	29.1
オ. 自動車やオートバイを盗まれる不安	3,762	6.5	10.7	36.4	23.2	23.2
カ. 自動車内の部品や金品を盗まれる不安	3,775	6.7	11.7	39.8	22.8	19.0
キ. 痴漢にあう不安	3,655	4.3	8.6	32.9	54.2	
ク. 振り込め詐欺や悪質商法などの詐欺犯罪にあう不安	3,780	6.1	11.5	40.9	41.5	
ケ. 自宅や自動車などが落書きをされたり、壊されたりする不安	3,734	6.2	10.9	43.9	38.9	
コ. 不審者に声をかけられるなどの不安	3,727	5.4	10.2	42.9	41.5	
サ. 子どもが不審者に声をかけられたり、連れ去られたりする不安	3,745	7.9	9.2	21.3	13.1	48.6
シ. 人につきまとわれたり、のぞかれたりする不安	3,712	5.5	10.2	39.8	44.5	
ス. インターネットを利用した犯罪の被害にあう不安	3,798	8.4	15.5	36.9	20.7	18.5
セ. 凶悪犯罪(殺人、放火、強盗、強姦)にまきこまれる不安	3,742	6.0	10.0	47.6	36.4	
ソ. 地震や風水害にあう不安	3,801	16.2	26.7	45.0	12.1	
タ. テロに巻き込まれる不安	3,754	6.2	9.3	42.1	42.4	
チ. 飲酒運転による交通事故、ひき逃げなどの悪質・危険な交通法令違反の被害にあう不安	3,779	9.8	17.1	54.0	19.1	
ツ. いやがらせやいたずらなどをされる不安	3,742	6.5	11.1	46.8	35.7	
テ. その他の不安(具体的に)	2,181	3.8	4.6	16.3	75.3	
ト. 全体的に	3,116	3.9	10.0	54.8	31.3	

問5. あなたがお住まいの地域の状況について、不安をどの程度感じていますか。

(ア～ソのそれぞれについて、1～4の番号のうち1つに○)

項 目	n	非常に不安	かなり不安	やや不安	不安はない
ア. 空きビルや空き店舗、使われていない倉庫がある	3,722	2.5	6.1	24.1	67.3
イ. 繁華街での客引き、キャッチセールスが目に付く	3,716	5.4	8.9	26.7	59.0
ウ. 夜、街灯が暗いところがある	3,746	12.0	19.2	42.7	26.1
エ. 木や茂みなど管理が行き届いていない場所がある	3,739	10.1	17.2	39.4	33.2
オ. 人通りの少ない道	3,777	12.5	20.7	46.3	20.6
カ. 風俗産業などの看板やチラシなどが目に付く	3,728	4.6	7.1	22.1	66.1
キ. スプレーによる落書きがある	3,724	4.4	8.8	33.3	53.5
ク. ごみやタバコの吸殻が散乱している	3,759	5.3	12.0	38.4	44.3
ケ. 路上への違法駐車や放置自転車がある	3,757	5.4	11.8	38.4	44.5
コ. 少年などのたむろ、たまり場がある	3,738	4.7	8.6	31.2	55.5
サ. 近所づきあいのない人がいる	3,753	4.4	9.4	43.0	43.2
シ. ゴミ出しルールや騒音を出すなど、地域のルールやマナーを守らない人がいる	3,789	8.8	14.0	38.0	39.2
ス. 近所にトラブルを起こす人がいる	3,747	4.4	6.4	26.8	62.5
セ. その他の不安(具体的に)	2,219	4.8	3.6	14.6	77.0
ソ. 全体的に	3,080	2.8	7.8	42.8	46.6

問6. あなたは、犯罪被害に巻き込まれないために、どのような対策をとっていますか。

(当てはまるものすべてに○)

n=3,903

1. 夕方等に部屋の明かりをつけたり、テレビの音を出すなど、家に人がいると思わせるようにする (44.0)
2. 外出時に玄関や窓に鍵をかける (94.4)
3. 夜間に門灯・玄関灯をつける (43.9)
4. 街灯や防犯灯のランプが切れていたら管理者に連絡する (32.5)
5. センサーライトの設置 (29.6)
6. 留守にするときには隣近所に声をかける (13.3)
7. 自転車の防犯登録 (40.3)
8. 警備会社のホームセキュリティサービスの利用 (4.8)
9. 地域パトロール活動への参加 (10.9)
10. 市が発信している防犯・防災情報「ケータイ SOS ネット」などに登録している (8.1)
11. 家財の盗難など犯罪被害にあったときのための損害賠償保険(任意)に加入している (16.6)
12. 防犯ブザー等の防犯グッズを携帯している (5.5)
13. 振り込め詐欺の被害に遭わないために、「在宅時でも留守番電話にしている」、「家族で合言葉を決める」、「家族で話し合いをする」などの対策をとっている (32.1)
14. その他() (2.6)
15. 特になにもしていない (2.0)

問7. 犯罪を抑止するための対策として、それぞれの事柄についてどの程度重要だと思いますか。
(ア～キのそれぞれについて、1～4の番号のうち1つに○)

項 目	n	重要 である	どちらかと いえば重要 である	どちらかと いえば重要 でない	重要 でない
ア. 個人の防犯対策	3,808	67.4	29.6	2.1	0.9
イ. 地域住民の防犯ボランティア	3,724	28.7	59.3	10.3	1.7
ウ. 自治体の防犯活動への取組み	3,751	39.6	52.2	6.9	1.3
エ. 市民と行政との協働による犯罪抑止への取組み	3,731	45.5	48.1	5.3	1.1
オ. 警察の防犯活動の充実	3,763	68.2	28.6	2.6	0.6
カ. 企業や事業者による地域の防犯活動への取組み	3,680	29.4	54.5	13.9	2.3
キ. 学校における防犯対策	3,693	55.1	38.1	5.4	1.5

自転車の利用についておたずねします

問8. あなたは自転車を利用していますか。(どちらかに○) n=3,909

1. 利用している(問9～問15をお答えください。) (38.0)
2. 利用していない(自転車の利用について質問は以上です。問16にお進みください。) (62.0)

問9. 主にどのようなときに自転車を利用していますか。(1つに○) n=1,445

1. 通勤・通学 (28.5)
2. 買い物・飲食 (50.0)
3. 余暇活動 (14.8)
4. 子どもの送り迎え (0.8)
5. 業務(仕事) (2.0)
6. その他 () (3.9)

問10. 次の自転車の利用、交通ルールについてご存知ですか。(知っているものすべてに○)

n=1,457

1. 道路交通法上、自転車は軽車両と位置づけられ、車道通行が原則 (91.4)
2. 車道では、左側を通行 (93.5)
3. 歩道では歩行者優先で、車道寄りを走行 (86.5)
4. 飲酒運転の禁止 (94.0)
5. 二人乗りの禁止(6歳未満の子ども一人の場合を除く) (92.0)
6. 並進の禁止(「並進可」標識のある場所を除く) (74.5)
7. 夜間はライトを点灯 (97.4)
8. 信号を守る (98.9)
9. 交差点での一時停止と安全確認 (88.3)
10. 子ども(13歳未満)はヘルメットを着用 (62.3)
11. 運転中の携帯電話や傘さし運転の禁止 (94.2)
12. 知っているものはない (0.0)

問 11. 普段、自転車を利用しているときに、どのようなことで不安や危険を感じますか。

(最も当てはまるもの3つまで○)

n=1,450

1. 車道と歩道の段差や砂利道などで走行しにくいこと (55.9)
2. 歩道と車道の区分がなく、歩行者や自動車と接触しそうになること (58.3)
3. 信号のない交差点や、カーブなどによる見通しの悪い道路 (36.7)
4. 街灯がなく、暗い道で走行すること (16.1)
5. 道幅いっぱいになって歩く歩行者 (29.0)
6. 自転車や自動車との出会いがしらでの衝突の危険性 (23.4)
7. 他の自転車利用者のスピードの出し過ぎ (15.6)
8. 路上の放置自転車や看板などの障害物 (2.2)
9. 信号や一時停止の無視など交通ルールが守られていない (15.4)
10. 乗車中の携帯電話の使用など交通マナーやモラルの低下 (21.2)
11. 自転車の盗難やいたずらなどの犯罪被害 (8.2)
12. その他 () (2.3)
13. 特に感じない (0.9)

問 12. 自転車を利用して、過去5年間に、転倒や接触、衝突などによる、けがや事故の経験はありますか。ある方は件数をお書きください。(どちらかに○)

n=1,388

	過去5年間の件数
1. ある (17.9)	件
2. ない (82.1)	

⇒ 問 13 へ

⇒ 問 14 へ

問 13. 過去5年間に、自転車を利用しておきた最も大きなけがや事故についておたずねします。

13-1. けがや事故がおきた時間帯はいつですか。(1つに○)

n=228

1. 早朝 (5:00頃~7:00頃) (1.8)
2. 朝の通勤・通学時間帯 (24.1)
3. 昼間 (通勤・通学時間以外) (42.1)
4. 夕方の帰宅時間帯 (22.8)
5. 夜間 (19:00頃~22:00頃) (7.5)
6. 深夜 (22:00頃~5:00頃) (1.8)

13-2. けがや事故がおきた場所は。(1つに○)

n=232

1. 歩道 (44.8)
2. 車道 (29.7)
3. 交差点 (13.4)
4. 駐輪場や駐車場の中や周辺 (2.6)
5. その他 () (9.5)

13-3. けがや事故の状況は。(1つに○)

n=236

1. 自分だけ転倒した (66.1)
2. 歩行者と接触・衝突した (2.1)
3. 自転車同士で接触・衝突した (8.9)
4. 自動車やバイクと接触・衝突した (19.1)
5. その他 () (3.8)

13-4. けがや事故がおこった原因は。(当てはまるものすべてに○)	n=237
1. 道路が狭かった	(20.3)
2. 通行量が多かった	(6.8)
3. 道路に段差があった	(35.9)
4. 歩道と車道の区分がなかった	(8.0)
5. 信号や標識、カーブミラーがなく見通しが悪かった	(11.4)
6. 街灯がなく、道路が暗かった	(8.0)
7. 歩行者が道いっぱいに広がって歩いていた	(8.0)
8. 携帯電話(自分あるいは相手が)をかけていた	(3.8)
9. 子どもを乗せていてバランスを崩した	(4.6)
10. 出会いがしらでの衝突	(12.7)
11. スピードを出し過ぎていた	(9.7)
12. 信号や一時停止の無視など交通ルールを守らなかった	(7.6)
13. 横断歩道のない場所で車道を横断した	(4.2)
14. 路上に放置自転車や看板などの障害物があった	(6.3)
15. その他()	(26.6)
16. 相手に過失があり、原因はわからない	(6.8)

13-5. けがをした体の箇所は。(当てはまるものすべてに○)	n=231
1. 頭部 (6.1) 2. 顔部 (9.5) 3. 頸部 (3.5) 4. 胸部 (7.4) 5. 背部 (2.6)	
6. 腰部 (9.5) 7. 腹部 (1.7) 8. 腕部 (32.9) 9. 脚部 (45.9) 10. けがをしていない (19.5)	

13-6. 医療機関で手当を受けましたか。(1つに○)	n=225
1. 医療機関には行ってない	(64.9)
2. 通院により手当を受けた	(33.3)
3. 入院して手当を受けた	(1.8)

問 14. あなたが自転車利用の不安や危険を減少させるために日頃していることはありますか。(当てはまるものすべてに○)	n=1,423
1. 不安や危険を感じる箇所はなるべく走行しないようにしている	(59.7)
2. 交通ルール、マナーを守る	(87.4)
3. 路上駐輪はしない	(53.4)
4. 自分がヘルメットを着用する	(4.2)
5. 子どもにヘルメットを着用させる	(12.6)
6. 自転車を離れるときは鍵をかける	(88.9)
7. 自転車の防犯登録	(70.4)
8. 損害賠償保険(任意)に加入している	(31.1)
9. その他()	(1.7)
10. 特になにもしていない	(1.1)

問 15. 自転車利用の不安や危険を改善するために必要なことはどのようなことでしょうか。
 (当てはまるものすべてに○)

n=1,380

1. 事故やけがが多く発生している場所や危険箇所を把握し、その原因を明らかにして、具体的な対策を講じる (62.4)
2. 交通ルール、マナー・モラルの向上の周知・啓発、運転技術を高める講習・研修を実施する (58.7)
3. 事故を誘発する路上駐輪や交通ルール、マナー違反など、厳しく取り締まる (59.7)
4. 違反者への罰則を強化する (39.8)
5. ヘルメットの着用や鍵かけなどの予防対策を充実する (32.0)
6. その他 () (4.1)

災害についておたずねします

問 16. あなたは、どのような災害に不安を感じていますか。
 (ア～カのそれぞれについて、1～4の番号のうち1つに○)

項 目	n	非常に不安	かなり不安	やや不安	不安はない
ア. 地震による被害	3,880	48.4	28.3	20.8	2.6
イ. 風水害(台風・豪雨・竜巻)	3,769	28.0	28.7	36.1	7.2
ウ. 土砂災害	3,628	11.2	12.7	36.1	39.9
エ. 火災	3,782	26.8	25.0	42.0	6.2
オ. 落雷による被害	3,714	16.2	18.8	49.5	15.5
カ. その他 ()	1,117	4.5	5.8	17.4	72.3

問 17. あなたは、災害時の対策や備えとして、それぞれの事柄についてどの程度重要だと思いますか。(ア～クのそれぞれについて、1～4の番号のうち1つに○)

項 目	n	重要である	どちらかといえば重要である	どちらかといえば重要でない	重要でない
ア. 非常持ち出し袋や水・食料などの備蓄品の用意	3,864	64.2	32.5	2.6	0.7
イ. 消火器の用意や火災警報器の設置	3,809	58.0	38.0	3.5	0.5
ウ. 避難訓練や自主防災組織への参加	3,771	30.3	57.6	10.3	1.8
エ. 地域の人たちとの災害時の役割分担の話し合い	3,738	22.9	59.0	15.9	2.2
オ. 職場や家庭での連絡方法の確認	3,743	53.2	40.8	4.9	1.0
カ. 行政(市、消防、警察など)による応急活動	3,777	62.9	33.8	2.7	0.6
キ. 避難所や避難経路等の整備	3,783	60.8	35.4	3.0	0.7
ク. 災害弱者や要援護者の支援体制	3,797	60.2	36.4	2.8	0.5

問 18. あなたは、どのような災害への自己対策をしていますか。(当てはまるものすべてに○)

n=3, 933

1. 非常持ち出し袋や水・食料などの備蓄品の用意 (65. 8)
2. 消火器の用意 (50. 8)
3. 火災警報器の設置 (63. 6)
4. 避難経路・避難場所の確認 (45. 9)
5. 家具などの転倒防止対策 (45. 6)
6. 避難訓練や自主防災組織への参加 (26. 0)
7. 家族との連絡方法の確認 (50. 4)
8. 地域の人たちとの災害時の役割分担の話し合い (7. 7)
9. 建物の耐震化・壁の補強など (17. 4)
10. ガラスの飛散防止 (11. 6)
11. その他 () (0. 8)
12. 特になにもしていない (7. 0)

問 19. 水や食料などの非常用備蓄品の状況についておたずねします。(1つに○)

n=3, 903

1. 1日分の備蓄をしている (17. 2)
2. 2日分の備蓄をしている (19. 2)
3. 3日分の備蓄をしている (32. 2)
4. 7日以上分の備蓄をしている (7. 5)
5. 特になにもしていない (24. 0)

あなたの基本的なことについておたずねします

問 20. 性別 (1つに○)

n=3, 958

1. 男性 (44. 9) 2. 女性 (54. 0) 3. 答えたくない (1. 1)

問 21. 年齢 (平成 29 年 8 月 1 日現在で、1つに○)

n=3, 962

1. 15～19 歳 (3. 8) 2. 20～24 歳 (3. 4) 3. 25～29 歳 (3. 7) 4. 30～34 歳 (4. 7)
5. 35～39 歳 (5. 1) 6. 40～44 歳 (7. 1) 7. 45～49 歳 (7. 6) 8. 50～54 歳 (7. 3)
9. 55～59 歳 (6. 6) 10. 60～64 歳 (9. 2) 11. 65～69 歳 (13. 5) 12. 70～74 歳 (11. 5)
13. 75～79 歳 (8. 7) 14. 80 歳以上 (7. 7)

アンケートはこれで終了です。ご協力ありがとうございました。

安全・健康・コミュニティに関する調査 報告書

平成 30 年 1 月

□発 行／厚木市協働安全部セーフコミュニティくらし安全課

〒243-8511 厚木市中町 3 丁目 17 番 17 号

電話 (046) 225-2865 (直通)

□実 施／株式会社エスピー研

〒102-0072 東京都千代田区飯田橋 3 丁目 11 番 20 号

電話 (03) 3239-0071